

由トナスニ足ルヘシト言ハシカ是ハ管ニ法ノ曲解タルノミナラス亦多クノ事實ニ背反スル者ト謂フヘシ適當ニ親權ヲ行使スル所アルニ拘ハラス尙ホ其意思ニ反シテ遊蕩惡交ニ陷ル者ノ少カラサルハ實際ノ事實ナルニ非スヤ説ヲナス者或ハ曰ク適當ノ親權ヲ行フ者アルニ拘ハラス若シ遊蕩又ハ惡交ニ陷ル者アリトセハ親權者ハ即チ民法ニ依ツテ懲戒處分ノ請求ヲナスヘキヲ以テ結局強制シテ以テ感化教育ニ付スルト同一ノ結果ヲ見ルヲ得ヘシト親權者ノ多ク因果シテ其遊蕩又ハ惡交ニ陷ル所ノ子ニ對シテ一々懲戒處分ノ請求ヲナスヘキヤハ甚タ疑ヒナキ能ハサル所ニシテ假リニ幾分カ請求ヲナスモノアリトスルモ民法ニ依ル懲戒ノ處分ハ僅カニ一時的姑息ノ救濟法タルニ過キスシテ始メヨリ六ヶ月ヲ超フヘカラスノ制限アルカ如キ唯ダ感化院ニ於テ之ヲ執行スルト云フノ名義ニ止マリ其實本來ノ意義ニ於ケル感化教育ノ範圍ニ屬スヘキモノニ非サルカ故ニ到底以テ適當ニ親權ヲ行フ者ハ下ニアル放蕩惡交ノ不良少年ヲ收容スルノ目的ヲ全フスル能ハサルヘキハ明ラカナリ是レ亦我カ感化法ノ不備ヲ感スル所ノ要點ナリト謂フヘシ

三、 犯罪行為アル所ノ者此種類ノ者カ感化教育ノ客體トシテ最モ重要ノ地位ヲ占ムル理由殊ニ之ヲ研究スルニ當リ必要ナル責任年齡ノ關係等ニ就テハ既ニ前ニ詳述スル所アルカ故ニ此ニハ之ヲ省略スフニリシグヲ始メ其他ノ學者カ往々感化教育ノ定義ヲ下スニ當ツテ「教育年齡ニアル未成年者」ト云フコトヲ一條件トナスカ如ク人ヲシテ動モスレハ未タ教育年齡ニ達セサル者若クハ既ニ教育年齡ヲ超過シタル者ハ感化教育ノ客體タラシムル能ハストノ疑ヒアラシムルヲ免カレスト雖モ是ハ畢竟不完全ナル感化制度ヲ施行シタル當時ノ實況ニ基テ學者一個ノ私見ヲ述ヘタルモノニ過キスシテ決シテ感化教育ナルモノ、本質ヲ明ラカニシタルモノトハ謂フヘカラス曾テ前ニモ述フル所アルカ如ク今日ニ於ケル各國立法ノ傾向ニ依レハ一面ニ大ニ犯罪責任年齡ノ程度ヲ高ムルト共ニ他面ニハマタ著ルシク感化教育ノ範圍ヲ擴ムルノ結果終ニ其年齡最下限ノ制限ヲ撤去スルコトハナルニ至レリ即チ普國ノ如キ從前一八七八年發布ノ感化法六歲以下ノ者ハ感化教育ニ付スル能ハサルノ規定ナリシカ新法ハ之ヲ改メテ六歲以下ノ者ト雖モ必要ヲ



認メタル場合ニハ感化教育ヲ適用シ得ルコト、ナセリ普國ニ於テハ新法施行以後一年ノ間ニ於テ六歳以下ノ者五〇六人總員ニ對シ百分ノ六、五ノ割合ニ當ルヲ收容シタリト云フ (Statistik u. d. Fürsorgeziehung, Minderj. 1903 S. VI)

### 第十一章 感化教育施行ノ方法

等シク感化教育ニ付スヘキ者ノ内ニモ各種ノ類別アルコト前節述フル所ノ如クナルカ故ニ從ツテ之レニ感化ヲ施ス上ニ就テモ亦種類ニ依リ其方法ヲ異ニスル所ナカルヘカラス感化教育法トシテ一般ニ認メラル、所ノモノハ家族感化及ヒ集合感化ノ二種ニシテ本人ノ家族又ハ他ノ適當ナル家族ニ交付シテ感化教育ヲ執行セシムルモノ之ヲ家族感化ト云ヒ官立公立又ハ私設ノ感化院 (Besserungsanstalt, Reformatory Schools) 矯治院 (Erziehungsanstalt, Industrial Schools) 其他一定ノ建物内ニ於テ執行スルモノ之ヲ集合感化法ト稱ス各國ノ立法ニ依レハ總ヘテ此二種ノ感化法ヲ認メサルモノナシト雖モ我國ニ於ケル懲治感化又ハ懲戒ナル所ノモノハ一ニ唯タ集合感化法ヲ採用スルニ

アルモノ、如シ

一、家族感化法 (Familienerziehung) 自己ノ屬スル家庭ハ最モ適當ナル教育ノ場所ナリトノ理ヲ推シテ之ヲ言ヘハ適當ナル家庭ヲ撰ンテ以テ之ニ放養浮浪其他ノ罪惡ニ陥リタル少年ノ教育ヲ托スルコト最モ得策ナルカ如シ蓋シ均シク有効ナル家庭教育ノ範圍ニ屬スル者ナルヲ以テナリ現ニ一八七八年ストツクフアルムニ開設セル列國監獄會議ノ如キモ此旨趣ニ基テ家族感化ノ比較的最も有効ノ方法タルコトヲ是認セリ然ルニ家族感化ナル所ノモノハフューリリシカカ之ヲ評シテ卓上ノ空想タルニ過キス、nur einen akademischen, ich moechte sagen nur idealen Wert, ト言ヘルカ如ク單ニ理想トシテハ殆ント間然スル所ナシト雖モ之ヲ實行スルコトノ甚タ困難ナルモノアルヲ免カレス、信任スルニ足ルノ家庭殊ニ兒童ヲ有シ之レニ嚴格ナル家庭教育ヲ施シツ、アル者即チ最モ適當ナル資格者ト認ムル者ノ如キハ斷然、不良少年ノ交附ヲ否拒スヘク其偶々之レヲ望ム者ハ則チ不良少年ヲ餌トシテ多少ノ收入ヲ得ルカ爲メニハ其子弟ヲ犠牲ニ供スルヲ厭ハスト云フカ如キ最モ不適當



ノ資格者タルヲ免レス富者ハ之ヲ辭シ貧民ハ則チ概シテ之ヲ交付スルハ資格ニ缺ク假リニ慈善義俠ノ心ニ富ミ相當ノ名譽信用資産等アル者ニシテ不良少年ヲ收容セントスル者ヲ求ムルニ困難ナラストスルモ所謂不良少年ナルモノ、多クカ家庭教育ノ力ニ依ツテ果シテ能ク矯治感化ノ目的ヲ達シ得ヘキヤ否ヤハ頗フル疑ヒナキ能ハサル所ニシテ偶々以テベスタロッヂ(Pestalozzi: „an die Staatslenke“ 1845 S. 327)ノ所謂下層社會ヲシテ其子ノ煩累ヨリ免カレンカ爲メニ之レカ養育ヲ富者ニ依頼スルノ情心ヲ養成セシムルノ弊ヲ見ルニ至ルヘキヲ恐レスンハアラス或ル學者カ家族感化法ヲ評シテ「國家カ其當然盡スヘキ義務ノ負擔ヲ輕減センカ爲メニ利用スル所ノ便宜的姑息法タルニ過キス」ト言フカ如ク少シク酷評ニ失スルノ嫌ヒナキニ非スト雖モ自ラマタ其間ニ實際ノ弊失ヲ看破シタル所アルヲ見ルヘシ是ヲ以テ之ヲ見レハ家族感化法其レ自身トシテハ少クモ必スシモ比較的最良最適ノ方法トシテ認ムヘキモノニ非サルコトヲ知ルヘキナリ余輩モ亦固トヨリ絶對ニ此方法ヲ否認スル者ニ非ス番タニ否認セサルノミナラス感化ニ付スヘキ者ノ種

類ニ依リテハ其効果ヲ全フスル上ニ於テ大ニ之ヲ利用スルノ必要アルヲ信スル者ナリ所謂放蕩狀態ニアル幼年者ノ多數又ハ既ニ不良若クハ犯罪行為ニ陥リタル者ト雖モ實際、一時的偶然ノ事情ニ出テ其個人的全體ノ關係トシテハ惡化程度ノ尙ホ極メテ淺少ナリト認メ得ヘキ少年(凡十歲以下)ノ如キハ成ルヘク家族感化ニ依ツテ執行スルヲ比較的有効ナリト信ス其他當該者ノ屬スル家庭ニ返付シテ感化セシムルノ方法ニ就テハ大體ニ於テ之ヲ批難スル者ノ多キノミナラス實際マタ其無効ナルヘキヲ豫想スルニ難カラスト雖モ例外トシテ例ヘハ家庭以外ノ或ル境遇ニアリタルノ結果トシテ一時的偶發且ツ輕微ナル不良又ハ犯罪行為ヲナシタル少年ニシテ適當善良ナル自己ノ家庭ヲ有スル者等ニ對シテハ其關係ヲ顧ミテ之ヲ親權感化ニ交付スルコト亦極メテ効果ヲ全フスルニ適切ナル方法ナリト信ス但家庭感化ノ方法ヲ採ルノ場合ニ於テハ其家庭ノ撰擇ニ就テ最モ慎重ナル注意ヲ加フル所ナカハカラサルハ勿論ナリ普國感化法施行細則家族感化ナル題目ノ下ニ説明スル所ニ曰ク感化教育ノ目的ニシテ家族交付ニ依リ之ヲ達シ得ラル、ノ



望アル以上ハ成ルヘク家族の感化ノ方法ニ據ルヲ要ス殊ニ感化生ニシテ未  
 タ就學年齡ニ達セス且ツ其道德的墮落ノ甚シキニ至ラサル者又ハ既ニ相當  
 期間感化院ニ收容シタルカ爲メニ規律及ヒ秩序ニ馴致セラレ且ツ肉體上精  
 神上及ヒ道德上大ニ改良ノ効果ヲ見ルニ至リタルカ如キ者ハ成ルヘク之ヲ  
 家族感化ニ付スルヲ可トス家族ノ撰擇ニ就テハ先ツ第一ニ彼レカ感化生ニ  
 對シ果シテ能ク宗教上道德上ノ教養ヲ施シ得ヘキ者ナルヤ否ヲ精査スヘシ  
 少クモ撰擇スヘキ家族ハ秩序アル關係ノ下ニ生計ヲ立テ且ツ相當ノ廣サア  
 ル住宅ヲ有スル者ナルヲ要ス地方又ハ小都會ニ於ケル家族ニシテ感化生ニ  
 對シ農業又ハ庭園ノ業務ニ從事セシムルノ便宜ヲ有スルノ家族ハ特ニ他ニ  
 先ンシテ之ヲ撰擇スヘシ大都會又ハ人口稠密ナル工業地方ニ居住スル家族  
 ハ成ルヘク之ヲ避クルヲ可トス中略家族交付ノ場合ニ於テハ感化生收容ニ  
 關シ豫メ當該家族長ト契約ヲ締結スヘシ家族長ハ此契約ニ依リ感化生ヲ其  
 家族團變ノ範圍ニ收容シ彼レニ宗教道德上ノ教養ヲ加ヘ彼レヲ規則正シク  
 教會及ヒ學校ニ出入通學セシメ學校ニ於ケル必要課業ヲ勵行セシメ秩序清

潔及ヒ勤勉ノ慣習ニ養成セシメ又彼レニ對シ臥床ヲ有スル適當ナル居住充  
 分ナル健康食身分ニ相當セル清潔ノ衣服ヲ與ヘ疾病ノ場合ニ於テハ看護及  
 ヒ醫療ヲ加ヘ感化生ノ健康及ヒ學校教育ヲ害セザル限リ其年齡及ヒ性狀ニ  
 適スル家事上及ヒ農事上ノ業務ニ從事セシムルノ義務ヲ有ス感化生ハ之ヲ  
 製造場ノ職工及ヒ類似ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得ス家事工業ニ從事セ  
 シムル場合ニ於テハ保護者ノ認諾アルヲ要ス感化生ヲ交付スヘキ家族ハ成  
 ルヘク本人カ曾テ在留シタル地方ニ接近セサルヲ可トス又同一家族ニ多數  
 ノ感化生ヲ收容セシムヘカラス適當ナル家族ノ撰擇ニ就テハ教會市町村役  
 場等ヲシテ相當ノ補助及ヒ必要ナル調査ヲ盡サシムヘシ時宜ニ依リ感化生  
 ヲ其本人ノ家族ニ交付スルコトヲ得但シ感化院又ハ他ノ家族ニ於ケル感化  
 ニ依リ感化生ノ改良ヲ見ルニ至リタルカ又ハ本人ノ家族ニ於ケル曾テ兒童  
 ニシテ放縱不保護ノ状態ニ陥ラシメタル關係ヲ去リタルカ又ハ其經濟上ノ  
 事情ノ改良ヲ見ルニ至リタルカ又ハ不貞ナル兩親ノ一方ヲ退去スルニ至リ  
 タルカ又ハ其家族カ從前ニ異リタル他ノ健全ナル社會上ノ境遇ニ移リタル



等ノ條件ヲ具備スルヲ要ス本人ノ家族ニ交付シタル場合ト雖モソレカ爲メニ感化教育ノ終了ニ至リタルニハ非ス故ニ地方組合ハ感化生ニ對シ常ニ適當ノ監督ヲ加ヘ且ツ不適當ト認メタル場合ニ於テハ何時ニテモ之レカ交付ヲ取消シ引續キ他ノ方法ニ依リ之レニ感化ヲ加フルヲ得ルモノト云々ト女子ハ男子ニ比スレハ概シテ家庭感化ニ交付スル必要ヲ認ムル場合多シトハ兒童研究ニ經驗アル者ノ一致スル所ノ定説ナルカ如シ普國ニ於ケル一八九〇年ノ調査ニ依レハ同年度未現在ノ感化生總數一〇八五六人ノ内家族交付ニ係ル者五七五人殆ント過半數ノ多キヲ占ムルノ實況ニシテ少シク濫用ニ傾クノ弊ナキニ非ス識者ノ批難アルヲ免カレザリシ所以ニシテ當局者モ亦大ニ此ニ警省ヲ加フル所アルノ結果改正感化法施行後ノ最近調査ニ依レハ感化兒童ノ總數ニ對シ家族交付ニ屬スル者ハ百分ノ三〇、四ニ過キスシテ此内他ノ家族ニ於テスル者男百分ノ一七、四女同一二、六合計同三〇、〇本人ノ家族ニ於テスル者男百分ノ〇、三女同〇、一合計同〇、四ノ割合マテニ減少スルノ事實ヲ見ルニ至レリ

二、集合的感化法 (Anstaltszielung) 一定ノ建物内ニ多數ノ幼年者ヲ收容シテ之レニ感化ヲ施ス所ノ方法ニシテ通例感化院又ハ矯治院ト稱スルモノ即チ是レナリ此施設物ハ別ツテ之ヲ官立、公立及ヒ私立ノ三種トナスヲ得ヘシト雖モ其組織ノ實質ニ於テハ殆ント毫モ相異ル所ナク唯タ官立ハ國家自ラ直接ニ之ヲ管理シ公私立ハ公共團體又ハ一人ノ管理ニ對シテ國家之ヲ保護監督スト云フノ差異アルニ過キス然レモ各國ニ於ケル實際施行スル所ノ狀況ニ就テ之ヲ見レハ刑法ニ所謂懲治處分ヲ受クヘキ所ノ者若クハ比較的年長且ツ深ク罪惡ニ浸染シタル所ノ不良少年ナルモノハ通例之ヲ官設物即チ感化院ニ送付シ年少ニシテ罪惡程度ノ未タ甚シカラサル所謂不良行爲ヲナス者 (Die Lasterhaften) ノ多數ハ普通之ヲ公私設物(即チ矯治場)ノ内ニ收容スルノ方針ヲ取ルモノ、如シ蓋シ人ニ依リ感化ヲ施ス上ニ於テ自ラ難易ノ區別アルヲ免カレサルハ當然ニシテ公私設物ノ事實ノ上ニ於テ官設物ニ比シ幾分カ組織上ノ不完全ナルモノアルヲ免カレサルノミナラス當事者モ亦成ルヘク難ヲ避ケテ易ニ就カント欲スルノ事情ニ制セラレ、ノ止ムヲ得サル



モノアルヘキヲ以テナリ余ノ見ル所ニ依ルモ一般ノ通則トシテ今日ニ於ケル實際ノ事實ヲ標準トスルハ敢テ妨ケナシト雖モ若シ個々ノ人格其他ノ境遇關係ニ就テ精査スル所アラハ犯罪行為アル所ノ者必スシモ深ク罪惡ニ陥リタル者ニ非サルカ如ク單純ナル不良少年ニシテマダ深ク罪惡ニ醜化シタル者亦少カラス殊ニ十歳以下ノ幼者ノ如キハ通例其年齡ノ關係ノミニテモ集合的感化ニ適セサル者多カルヘキヲ以テ其撰擇ニ就テハ宜シク個々ノ場合ニ於ケル實際關係ヲ省察シタル上ニテ之ヲ決定セシムル所アルヲ要ス英國ニ於テハ一面ニ殆ント一モ官立感化院トシテ認ムヘキモノナキノ他面ニハ立法上及ヒ事實上家族の感化法ヲ施行スルノ場合殆ント絶無ナリト謂フモ可ナリ強イテ家族の感化ニ類似スルモノヲ求メントナラハ所謂懶惰學校 (Truant schools) 及ヒ晝間工藝院 (Day industrial schools) ナルモノ是レナリト答フルヲ得ヘキモ是レマタ其實質ニ於テハ到底施設物的感化法ノ一種タルニ外ナラズト謂ハサルヲ得ス英國ニ於テハ集合的感化法ヲ執行スル機關トシテ四種ノ施設物ヲ有ス即チ「レホルマトリースクール」ス「インダストリアール」

スクール」ス「トルアント」ス「クール」ス「及ヒ「アイ」インダトリ「アイ」ル「スクール」ス「チルモノ」是レナリ此ニ其各種ノ性質ヲ明ラカナラシムルカ爲メニ再ヒ久米文學士ノ講話筆記ヲ引證センニ感化院 (レホルマトリースクール) スハ十六歳未滿ヲ稍々固陋ナル幼年者即チ刑法ニ定メタル或ル罪ヲ現實ニ犯シ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ收容スル所テアル工藝院 (インダストリアール) スク「ール」スハ年齢カラ言フト十四歳未滿テ極ク微少ナル犯罪ヲ犯シタル者若クハ不良ナル行為ノアル者デアツテ若シソレヲ其儘ニ抛ツテ置クト益々不良ニ陥ルテアロフト云フ懸念ノアル者ヲ收容スル場所ニナツテ居ル故ニ此感化院ト工藝院トヲ對照シテ見ルト感化院ノ方ハ即チ犯罪的施設デアアル工藝院ハ非犯罪的施設デアアル前ノ方ハ現實ノ幼年犯罪者ノ爲メニスルモノデアアル後ノ方ハ犯罪潜伏期ニアル幼年者ヲ入レル所テアル勸學院 (トルリアント) ス「クール」ス「ト」ハ初等教育法ノ支配ヲ受ケルモノデアアルガ是モ矢張り本人カ學校ニ行クコトヲ嫌フトカ乃至ハ就學義務ヲ有ツテ居ル父母又ハ後見人トカ云フモノ、無イ者テソレカ爲メニ學校ニ通ツテ居ラヌ者ヲ收容スル所テ



アル、中略第四番目ノ工藝院モ初等教育法ニ據テ出來タ制度テアル是レハ大體ニ言フト法律上ノ性質ハ工藝院ト同シモノテアル違フ所ハ夜間泊ラセヌト云フダケデアアル此學校テモ名ノ如ク工藝的練習ヲ重モナル者トシテ兼テ讀書算術等ノ教育ヲ授ケ而シテ晝間ダケハ一度ナリ二度ナリ三度ナリ飯ヲ食ハセル併シ泊メハシナイ夜分ハ自宅ニ歸ヘス是レカ「デ」イ「ン」ダ「ス」ト「リ」アル、ス「ク」ト「ル」ノ趣意デアアル云々出所前記拙著獄事談英國感化事業ノ組織及ヒ實況ヲ記述セルモノ、一節ニ曰ク「感化院ハ固ト少クモ十日以上ノ禁錮刑ニ處セラレタル十六歳ノ幼年者ニ對シ監獄處刑後ノ感化教育ヲ行フカ爲メニ設ケタルモノナリシカ一八八七年ノリパブールニ於ケル感化院長ノ會議ニ於テ感化院收容ヲ以テ一種獨立ノ處分トシテ裁判官ノ當該犯罪者ニ對シ處刑ヲ俟タス直チニ感化處分ノ言渡ヲ爲スコトヲ得セシムヘシトノ提案ヲ可決シ其後輿論モ亦一般ニ之ヲ是認スルニ至リタルヲ以テ終ニ二三年前ヨリ從來ノ法律ヲ改正シ今日ニ於テハ裁判官ハ感化院ニ對シ直接幼年犯罪者ヲ送付シ得ルニ至レリ兩院共ニ其基礎トスル所ハ純然タル私設ニシテ國家ハ唯

タ之レニ認可ヲ與ヘ且ツ繼續的相當ノ監督ヲ加アル所アルニ過キス尤モ其ノ事業ニ就テハ國庫ヨリ維持費ノ補助(感化生一人ニ就キ每週三シリング六ペンス)乃至六シリングノ割ヲ受ケ又收容感化生ノ兩親ニ對シ養育料トテ一週一人ニ就キ五シリング以下ノ費額ヲ追徴スルヲ得最近ノ調査ニ依レハ英國ニ於ケル大小各種ノ感化院ニシテ其聯合幼年保護協會 Reformatory and refuge unionニ屬スル所ノ者英國本土ノミニテ總計凡ソ二百七十四個所アリ此内認可感化院四十三收容感化生員四六〇二人認可授業院インダストリアルスクール百三十七普通授業院念愴學校晝間授業院如キハ此内ニ包含スノ百五十四兩院收容生員併セテ二六〇一人此合計即チ三〇六一一人ニシテ内男二四四七五人女六一三八人トス其多數ナルコト實ニ驚クヘシ云々(獄事談六九一頁)普國ニ於ケル最近ノ調査ニ依レハ公私感化院(Besserungs- und Erziehungsanstalt)ノ總數ハ百八十三個所ニシテ此内官立感化院五、公立感化院(州立及ハ市立)十五、私立感化院百六十三、收容員ノ總數一万余人内、官立感化院收容者平均約六百十人ナリ(獄事談六八八頁)普國感化法施行細則、感化院收容ノ標準トシテ規定スル所ニ依レハ(幼年者ニ



シテ情慾的惡習ニ陥リ又ハ浮浪及ヒ犯罪ノ傾向ヲ有シ又ハ道德上著シク放縱墮落ノ状態ニ陥リ又ハ其肉體上ノ狀況カ特別ナル醫療看護ヲ要スル事情アルノ場合ニ在テハ成ルヘク之ヲ感化院ニ收容スルヲ要ス感化院ニ在テハ感化生ニ對シ規律及ヒ秩序ニ馴致シ且ツ肉體及ヒ精神ノ健全ナル發達ヲ助クルニ必要ナル期間ニ限ツテ之ヲ收容シ若シ其目的ヲ達スルニ至リタルトキハ成ルヘク院長ノ監督ノ下ニ之ヲ適當ナル家族即チ就學義務者ハ適當ナル保育者ニ就學義務以外ノ者ハ徒弟又ハ奉公人トシテ之ヲ出院セシムヘシ中略感化院ノ收容契約ヲ行フニ就テハ適當ナル寺立又ハ私立感化院ヲ利用スヘシ若シ是等ノ設ケアラサルトキハ地方組合ハ其所屬ノ感化院ヲ新設スヘシ所謂適當ナル感化院トハ感化生ニ對シ宗教道德ノ基礎ノ上ニ教養ヲ加フルノ保障ヲ有シ且ツ眞ニ感化教育ノ職責ヲ全フスル資格アル院長ヲ戴ク所ノモノヲ指シテ之ヲ稱ス感化院ハ其位置構造及ヒ諸般ノ組織上ニ於テ感化教育ノ旨趣ニ適シ且ツ殊ニ感化生ニ對シ適當ナル教育上ノ設備ヲ有スルモノアルヲ要ス感化院ハ其規模過小ナルヘカラス規模過小ナルトキハ勢ヒ

其經濟上ノ關係ヨリ教育ニ經驗アル適任ノ院長ヲ置ク能ハサルカ爲メニ到底十分ナル學校教育ヲ施スヲ得サルノ弊アルヲ免カレス之レニ反シ規模ノ過大ナルモ亦不可ナリ規模過大ナルトキハ院長ヲシテ各兒童ノ性狀ヲ審カニシ之レニ對スル適當ノ處遇ヲ施スコト能ハサルノ恐レアリ經驗スル所ニ依レハ私立感化院ニ於ケル收容ノ人員ハ五十人乃至百人ヲ以テ最も適當トスヘシ私立感化院ヲ指定スルニ就テハ成ルヘク其宗派上ノ基礎ノ上ニ創設セラレ且ツ男兒又ハ女兒ノ一種ニ限リ收容ヲ目的トスル所ノ者ヲ撰擇スヘシ就學年齡ニ達セサル兒童ハ時宜ニ依リ男女兩性ノ收容ヲ目的トスル感化院ニ交付スルヲ得但シ其教習ノ場所及ヒ遊戯場ハ常ニ全然相區劃セラレアルヲ要ス此種ノ感化院ニシテ大都會ノ中央又ハ工業地方ニアル者ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ地方組合所屬ノ感化院ニアツテハ八十人乃至二百人ヲ定員トシ宗派及男女兩性ニ依リ全然區劃シテ之ヲ建設スルヲ要ス男兒ヲ收容スル感化院ノ院長ハ教育上ノ智識ヲ備ヘタル僧侶又ハ公ケノ學校教育ニ經驗アル適當ノ教師ノ内ヨリ之ヲ撰任スヘシ院長ノ外相當ノ教師及ヒ指導者



ヲ置キ適當ニ感化生ヲ配置シテ其監督及ヒ教養ノ普及周到ヲ努メシムヘシ  
 其他感化院ニハ相當ノ地所ヲ備ヘ感化生ヲシテ農業園藝及ヒ牧蓄ニ從事セ  
 シムヘシ又適當ノ工業ヲ備ヘ感化男生ヲシテ相當ノ管理ノ下ニ手工業ニ習  
 熟セシムルヲ要ス婦女感化院ニアツテハ教誨師及ヒ醫師ヲ除クノ外ハ凡テ  
 女職員ヲシテ院務ニ從事セシムヘシ感化生ニ對シ家事庭園農業及ヒ牧蓄等  
 ノ業務ニ習熟セシムルノ設備アルヲ要ス此他又通常婦人ノ習熟ヲ要スル裁  
 縫編物等ノ業務ヲモ授クヘシ感化院ニ在テハ就學義務アル兒童ニ對シ規定  
 ノ小學教育ヲ授クルヲ要ス小學卒業ノ兒童ニ對シテハ作業ニ從事セシムル  
 ノ除暇ニ於テ小學用ノ教科書ニ依リ引續キ補習ノ教育ヲ施スヘシ地方組合  
 ハ其感化院ヲ建設スルニ當リ不用ニ屬シタル貧民院及ヒ勞役場附屬ノ建物  
 ヲ利用スルコトヲ得但シ貧民及ヒ勞役者集合ノ場所ト全然區劃スヘシ感化  
 院ニ於テハ獨立シタル教育上ニ經驗アル院長及ヒ特別ナル教師看護者等ヲ  
 置キ決シテ貧民院及ヒ勞役場ノ役員ヲシテ院務ヲ兼掌セシムヘカラス感化  
 生ハ總ヘテノ場合ニ於テ就業ノ場合ト雖モ貧民若クハ勞役場ノ收容者ト確

然タル區別ヲ設ケ毫無モ相接觸スルノ機會ナカラシムルヲ要ス。集合的感化教  
 育ノ撰釋組織及ヒ施行ノ方法ニ就テ研究ノ必要アル項目ハ殆ント擧ケテ此  
 ニ網羅シ且ツ之レニ向ツテ遺憾ナク適當ノ決定及ヒ説明ヲ與ヘタルモノト  
 謂フヲ得ヘシ一九〇〇年白耳義ノブルツセルニ開キタル第六回列國監獄會  
 議ハ犯罪アル幼者若クハ道德上腐敗墮落シタル未成年者ニ對シ適當ナル教  
 育ヲ施サンカ爲メニ特別ノ營造物ニ入レシムルノ主義(感化院)及徒弟主義若  
 クハ家族ノ團體中ニ收容セシムル主義ハ之ヲ折衷スルコトヲ得ルヤノ問題  
 第四部ニ對シ家族主義ト院內主義余ノ所謂集合的感化教育トハ各々其目的  
 ヲ異ニス家族主義ハ普通教育ニ對シテ最モ適當ノモノナルニ反シ院內主義  
 ハ感化教育ニ對シ殆ント唯一ノ手段ト認ムルヲ得ヘシ本會ハ未成年犯罪者  
 教養ノ目的ヲ達スルカ爲メニ此二ツノ主義ヲ適當ニ相聯絡利用スルノ必要  
 アルヲ認ム未成年者ヲ何レニ交付スヘキヤヲ決定スル前ニ於テ先ツ相當ノ  
 期間之レニ對シテ試驗的視察ヲ加フル所アルヲ要ス



## 第十三章 感化院ニ於ケル管理組織

感化院ニ於ケル管理組織ノ大體ニ就キテ觀察スルトキハ通例之ヲ家族制度協同制度及ヒ學校制度ノ三種ニ大別スルヲ得ヘシ所謂軍隊制度(Military-system)ナル所ノモノハ協同制度又ハ學校制度ニ附帶スル所ノ一方法タルニ過キスシテ稀レニハ家族制度ヲ採用スル所ニアツテモ此方法ニ據ルモノナキニ非ス瑞西ニ於ケル多クノ感化院ノ如キ即チ是レナリ

一、家族制度(Familiensystem)ナルモノハ努メテ普通家庭生活ノ關係ニ近接セシメントヨリ目的トスル所ノモノニシテ眞正ナル愛ヲ以テ根本ノ基礎トナシ宗教的勢力嚴格ナル規律及ヒ繼續的業務ヲ以テ感化教育ノ全體ヲ組織セシメントスル所ノモノナリ其始メテ之ヲ施行セシ當時ニ於テハ一小家庭内ニ收容スル所ノ兒童僅カニ十數人ニ過キサリシカ故ニ實際ノ内容モ亦自ラ一家庭ノ稍々大ナルモノニ同シク兒童ノ家長ヲ見ルコト父ノ如ク兒童ノ兒童ニ對スル恰カモ同胞ノ兄弟タルガ如キ關係ヲ保タシムルコトヲ得タリト雖モ爾來漸ク其規模ノ擴張スルト共ニ其關係モ亦從テ一變ヲ來タシ今日ノ

所謂感化院ニ於ケル家族制度ナル所ノモノハ收容總員多キハ三百人以上五百人少キモ普通百人内外ヲ降ラサル多數ノ者ニ就キ或ハ二十人或ハ三十人多キハ則チ五十人ヲ區處シテ一家族ヲ組織セシムルノ實況ナルカ故ニ名ハ家族ナルモ實質ハ即チ普通ノ家庭ト甚タ其趣ヲ異ニシ家長アリ家婦アツテ各家族ヲ主宰スルノ仕組ミナルニモ拘ハラズ之レヲシテ二十人乃至五十人ノ多數兒童ニ對シテ事實上ノ父母タルカ如キ關係ヲ保チ得セシメント甚タ困難ナルノミナラス兒童相互ノ間ニ同胞ノ兄弟タル觀念ヲ起シ能ハシメシコト亦望ムベカラサルハ常識ヲ以テ見ルモ明ラカナリ人ハ先ツ家庭ノ愛育ニ由ツテ始メテ隣佑鄉黨ニ對スルノ愛ヲ知り而シテ後チ進ンテ社會國家ヲ愛スルト共ニ之レニ對スルノ義務觀念ヲ惹起シ養成セシメラル、ニ至ルヲ得ヘシ不長少年ハ家庭ノ愛育ニ欠乏スル所ノモノナリ之ヲ良民的生活ニ馴致セシメント欲セハ須ラク先ツ家庭的教養ヲ加フル所ナカルベカラス家族制度ノ根本義ハ即チ此ニアリ理想トシテハ殆ント一點ノ間然スル所ナシト雖モ實行ニ至ツテハ甚タ困難ナルノミナラス比較的、多額ノ經費ヲ要シテ



始メテ施行シ得ラル、所ノモノモ唯タ僅カニ其形式ヲ備フルヲ得ルニ過キ  
 ス(家族制度ハ他ノ制度ニ比スレハ最モ多クノ經費ヲ要スルハ實際ノ事實ナ  
 リ)クローネ曰ク「家族制度ノ内容ハ總ヘテ虚偽ニ過キス」(Die ganzen Einricht-  
 ung Kranker an einer innern Unwahrheit)フエーリングノ如キモ亦其著感化教育  
 論(出所前出)ノ内ニ之レト同一ノ趣旨ヲ以テ一層痛切ニ之ヲ批難スル所アリ  
 余ノ見ル所ニ依ルモ大體ニ於テ家庭教養ノ欠乏ヲ補フノ方法ニ依リ感化教  
 育ヲ施行スルノ必要アルハ勿論ナリト雖モ徒ラニ實行ニ困難ナル家族制度  
 ト云フカ如キ名ノ下ニ多額ノ經費ヲ要スルノ施設ヲナスハ管タニ我カ國情  
 ニ適セサルノミナラス偶マ以テ我カ感化事業ノ發達ヲ阻止スルノ弊アルヲ  
 免カレサルヘシト信ス但シ除外例トシテ小規模ノ私設感化院等ニ之ヲ採用  
 スルノ妨ケナキハ勿論ニシテ其實此クノ如キ種類ノモノハ寧ロ始メヨリ一  
 個ノ家庭ト見做スヲ適當トスヘシ家族制度ハ瑞西英國等ニ於テ專ラ採用ス  
 ル所ニシテ殊ニ英國レッドヒル感化院ハ此制度ノ模範感化院トシテ認ムル  
 ヲ得ル所ノモノナルカ故ニ其組織ノ一斑ヲ此ニ掲載スヘシ本院組織ノ基礎

トスル所ハ家族主義ニシテ佛國流ノ軍隊主義ハ管タニ英國ノ國情ニ適セザ  
 ルノミナラス徒ラニ器械的人形ヲ養成スルノ結果反テ普通良民ノ生活ニ障  
 害ヲ及ホスモノナリトシテ斷然之ヲ排斥セリ宗教教育規律及ヒ作業ハ本院  
 ノ事業ヲ組織スル所ノ要素ニシテ努メテ獨立自營ノ人格ヲ養成スルニ至ラ  
 シメンコトヲ以テ目的トス院生ヲ五家族ニ別チ各家族ヲ全ク獨立シタル建  
 設物ノ内ニ之ヲ配置シ一人ノ家長即チ家父ヲ設ケテ各家族ニ主宰タラシム  
 家長ハ飲食起臥總ヘテ其主宰ニ屬スル院兒ト之レヲ共ニス各家族皆ナ一家  
 ノ經理ニ必要ナル機關ヲ具備セサルハナク炊所アリ浴室アリ洗濯場アリ甲  
 ノ家ニ肉食ナルノ時乙ノ家ニ菜食ナルノ時アルヘク殆ント全ク相獨立シタ  
 ル一世帯ノ形ヲナセリ工場五棟アリテ各家族ノ生徒ヲ共同就業セシム工場  
 余ノ亦各家族ニ專屬セリトノ記述アルモノヲ見ルト雖モ從前ハ現モ角少クモ  
 所ノ事實ナリ則チ第一工場ニ在ツテハ靴工及ヒ裁縫工ヲ教ヘ第二工場ハ鍛  
 冶工及ヒ指物工ニ充テ第三工場ハ行李編工第四工場ハ麩麵燒業第五工場ハ  
 左官工教授ノ場所ニ之ヲ供ス工業ノ外尙ホ總ヘテノ生徒ヲシテ代ハル々々



農業ニ從事セシム下種ヨリ收穫ニ至ルマテ搾乳ヨリ乾酪ノ製造ニ至ルマテ總ヘテ農事百般ノ業ヲ教授ス各家族長ハ結婚シタル者ナルヲ要シ教育、教養及ヒ作業ヲ指導セシム家長ハ即チ一身ニテ家父、教師及ヒ授業師ヲ兼スルモノト謂フヘシ各家族配置ノ人員ハ五十人ニシテ通シテ六家族アリ平均收容人員總計三百人トス家族主義ノ理想ハ未タ盡ク之ヲ實行スルニ至リタリトハ謂フヘカラサルモ少クモ不良少年ニ對シミスメリーカイペンターノ所謂家族觀念(Family feeling)ノ養成ニ努ムルノ設備ハ至レリ盡セリト謂ハサルヲ得ス兒童ハ昆弟的愛情ヲ以テ和親ミ家父其他ノ長者ニ對シテハ尊敬從順ノ習慣ヲ養成スルニ至ラシメンコトヲ勉ムト云フ(獄事談レツドヒル)感化院參觀ノ一節)

二 協同制度 (das Kollektiv-Massensystem) 視察監督ノ周到ヲ期スルカ爲メニ多少年齢性質等ニ依ツテ區處スル所ナキニ非スト雖モ大體先ヅ多數ノ生徒ヲ廣濶ナル一室ニ收容シテ寢食ヲ共ニシ教育作業ヲ同フセシムルノ組織ニシテ區處シタル各組合ニハ一人ノ看守ヲ配置シテ主宰トナシ教師及ヒ授業師各々一人ヲ之レニ附屬セシメテ教育及ヒ作業ノ事務ニ專掌セシムルモノトス此制度ヲ施行スル所ニアツテハ多ク軍隊的規律ノ修養ニ重キヲ置キ恰カモ感化院ヲシテ兵營ト一般ナル觀ヲ呈スルニ至ラシム所謂軍隊制度ノ名稱ハ此ニ起原シタルモノナリ軍隊規律ニ依ツテ放養浮浪ノ習慣ヲ矯治セント欲スルノ理想ハ何人モ之ヲ否認スル能ハサルヘシト雖モ是レ亦豫期スルカ如キ實効ヲ見ル能ハサル所ニシテ兵役ヲ終ヘタル一般青年ノ實際的成績ニ就テ見ルモ能ク其無効事實ヲ推知スルヲ得ヘキナリレンツ(Lenz: „die Zwan- gserziehung in England“ 1894 S. 89)ハ感化院ニ於ケル極端ナル軍隊規律ノ教育法ニ對シ有望ナル少年ヲ化シテ意識ナク活動ナキ一個ノ器械的人物タラシムルモノナリト痛評セリ英國獨乙等ニアツテハ一般ニ此制度ヲ批難スル者多キモノ、如シ佛國白耳義等ニ於テハ專ラ此制度ヲ採用シ彼ノ有名ナル「ニルマイラ」感化院ノ如キモ近年大ニ此ニ傾ク所アリタルカ爲メニ漸次其流行ヲ北米合衆國ノ各感化院ニ見ルノ徵候ヲ促シタルモノ、如シ或ハ是ヲ以テ帝國主義ノ影響ニ歸スル者ナキニ非ス感化制度カ往々ニシテ時勢ノ風潮ニ



支配セラル、ノ傾キアルヲ免カレサルハ當局者ノ大ニ警戒セサルヘカラサル所ナリト謂フヘシ

三、學校制度(Schul-Schulclassensystem) 教養ノ機關ハ家庭ト學校トニアリ家庭既ニ其任務ヲ盡ス能ハストナラバ宜シク學校ヲ以テ專ラ其任務ヲ盡サシムル所ナカルヘカラス此制度ノ因ツテ基ク所以ノ趣旨ハ則チ此ニ存ス收容スル所ノ感化生ハ其學力ノ程度ニ依ツテ之ヲ若干ノ學級ニ區劃シ各級指導者及ヒ教師各々一人ヲ配置シテ監督教育及ヒ作業ノ事務ヲ管理セシメ成ルヘク生徒ヲシテ長シ同一ノ教師及ヒ指導者ノ下ニ管理セシメラレシコトヲ勉ム其大體ノ組織ニ於テハ多ク協同制度ナルモノト相異ル所ナシト雖モ彼レノ專ラ軍隊規律ヲ勵行スルニ反シ此レハ則チ一般學校ニ適用スル規律ヲ標準トシタル範圍内ニ於テ多少ノ取捨ヲ加フル所アルニ過キス集合的感化教育ノ施行法トシテハ比較的モ簡易着實且ツ適切ナルモノト謂フヲ得ヘシ

獨乙各聯邦ニ於ケル感化院ノ一般ニ是認採用スル所ニシテ普國感化法施行細則ニ於テ感化院ニアツテハ院長ノ外相當ノ教師及ヒ指導者ヲ置キ適當ニ

感化生ヲ配置シテ其監督及ヒ教養ノ普及周到ヲ努ムヘシト規定シタルハ其意蓋シ學校制度ヲ採用スヘシトノ方針ヲ明示シタルニ外ナラサルナリ要スルニ男女年齢性質體格罪惡ノ程度等ニ依ツテ感化生ヲ區劃スルノ必要アルコト勿論ナリト雖モ是ハ如何ナル制度ヲ施行スル場合ニアツテモ到底集合的教育法ヲ行フ所ノ一感化院内ニ於テ爲シ能ハサル所ナルヲ以テ完全ニ之レカ區劃ノ目的ヲ達センカ爲メニハ英國カ收容者ノ種類ニ依リテ「レホルマトリイスクール」「インダストリアルスクール」「トリヤントスクール」「デイインダストリヤールスクール」等各種ノ感化院ヲ設クルノ例ニ倣ラヒ假令名稱ヲ異ニセサルマテモ少クモ各感化院ニ就テ男女年齢罪質等ヲ標準トシタル收容感化生ノ種類ヲ豫定シ置クコト最モ必要ナリト謂フヘシ

感化ノ決定ハ如何ナル機關ニ於テ又如何ナル手續ニ依ルヲ可トスルヤ教育ノ科目及ヒ作業ノ種類ハ如何ニ之ヲ撰定スヘキヤ職員ニ要スル所ノ資格如何收容及出院ノ方法如何監督又ハ保護機關ノ組織如何其他細目ニ涉ツテ尙ホ研究ヲ要スルモノ少カラスト雖モ是ハ姑ク他日ノ機會ニ讓ルコト、ス



ベシ出、院若クハ感化處分ノ解除ハ凡ヘテ條件付假處分ノ方法ニ依ルヲ要シ  
 改、其ノ成績ヲ認ムル時期丁年齡ノ範圍ニ於テヲ以テ感化處分ノ終結トナス  
 コトヲ本則トスヘシ犯罪アル未成年者ニ對シ普通ノ刑事裁判官ヲシテ感化  
 處分ノ決定ヲナサシムルコトニ就テハ余ノ強テ異議ナキ所ナリト雖モ英佛  
 及ヒ伊國ノ制度モ亦我國ニ同シ獨乙ニ於テハ後見裁判所ヲシテ之ヲ管掌セ  
 シム其他地方行政官ニ一任スル所亦少カラズ學說トシテ一般ニ普通裁判官  
 ニ干與セシムルノ制度ヲ否認スルモノ、如シ既ニ一面ニ於テ我カ感化法ノ  
 上ニ一般ノ感化生ニ對シテ其二十歳ニ至ルマデノ間在院即チ處分ヲ繼續シ  
 得ルノ規定(感化法第六條)ヲ設ケタル以上ハ他面ニ刑法ニ依リ處分セラルヘ  
 キ者ニ對シテモ亦同一ノ規定ヲ適用スルニ至ラシメサルヘカラス現行刑法  
 モ亦單ニ滿十六歳又ハ滿二十歳ニ過キササル時間懲治場ニ留置スルヲ得(第七  
 十九條及第八十條)ト云フニ止マリ殊ニ其性質上一般ノ刑罰ト異ル所アルヲ  
 以テ必スシモ裁判官ニ於テ一定ノ期限ヲ宣告スルノ必要アラザルカ如シト  
 雖モ實際ニアツテハ總ヘテ一般ノ刑罰ト同シク懲治期限モ亦裁判官ニ於テ

決定宣告スルノ例ニシテ甚シキハ之ヲ見ルコト一般ノ刑罰(自由刑)ニ對スル  
 所ト毫モ異ルナク十日前後十五日廿日一ヶ月ト云フカ如キ短期ノ懲治處分  
 ヲ宣告スルノ實例ニ乏シカラズ不條理モ亦極マレリト謂フヘク感化ハ改  
 良ノ成績ヲ認ムル時ヲ以テ其處分ノ終結期トナスヘシトノ原則ヲ全然無視  
 シタルモノナリト斷言セサルヲ得ズ改正案カ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲  
 治處分ヲ命スルコトヲ得(第五十一條)ト規定シタルカ如キハ明ラカニ裁判官  
 ヲシテ懲治處分ノ期限ヲ決定宣告スルノ意ヲ示シタルモノト謂フヘク余ノ  
 最モ遺憾トスル所ナリ

第十四章 感化事業ニ對スル經費上ノ關係

感化事業ニ要スルノ費用ハ第一兩親又ハ扶養義務者ヲシテ之レカ負擔ニ分  
 任セシムヘキハ當然ナリ何トナレハ彼レハ其子カ子トシテ受クヘキ教育ノ  
 一種タル感化教育ノ下ニ強制セラレタルカ爲メニ其親權上當然支出スヘキ  
 教養費ヲ免カル、ノ理ナク殊ニ其當然盡スヘキ教養義務ノ弛怠ニ依リ終ニ



子ヲシテ感化教育ニ強制スルノ已ム能ハサルニ至ラシメタル責任アルヲ以テナリ且ツ社會政策ノ上ヨリ之ヲ云フモ徒ラニ貧民ヲシテ其當然盡スヘキ負擔ヲ輕カラシムルノ道ヲ開クコトハ反テ彼レノ依頼怠惰ノ惡風ヲ助長スルモノニシテ決シテ策ノ得タルモノニ非ス況ンヤサナキダニ貧民ノ常態トシテ兒童教養ノ何タルヲ解セサル者滔々皆是レナルカ故ニ若シ彼レヲシテ其教養ヲ怠ルノ結果反ツテ一面己レノ煩累ヲ免カレ一面公費ヲ以テ比較的完全ナル教養ノ下ニ其兒童ノ幸運ヲ豫期スヘシトノ觀念ヲ起サシムルカ如キコトアリトセハ實ニ測ルヘカラサル禍害ヲ波及セシムルニ至ルベキ恐レアルニ於テチャヤ是ヲ以テ英國ノ如キハ兩親又ハ扶養義務者ニ對シ費用追徵法ヲ勵行スルコト極メテ嚴密ニシテ特ニ之レカ爲メニ若干ノ調査委員ヲ設定シ置キ必要ニ應シ時々臨檢調査ヲ遂ゲ幾分ニテモ實際負擔ニ堪ヘ得ラル、限リハ總ヘテノ方法ヲ以テ之ヲ徵收セシムルコトヲ努ム故ニ實際上定額ヲ收ムル能ハサル者ノ多キハ免カレサル所ナリト雖モ全ク負擔ヨリ免除セラル、ノ僥倖ヲ得ルカ如キ者ハ幾ント絶無ナリト云フ普國ノ如キモ此點ニ

就テハ深ク注意ヲ加フル所アリ地方組合及ヒ町村貧民組合ニ與フルニ感化生ノ收容ニ關スル費用ヲハ本人又ハ民法ニ依ル扶養義務者ヨリ追徵スルヲ得ルノ權利ヲ以テシ追徵ニ應スヘキ義務アル者ニシテ若シ全額ヲ辨償スル能ハサル餘義ナキ事情アル場合ニ於テハ幾分ニテモ出來得ラル、タケ辨償セシメ努メテ義務者ヲシテ其教養義務ノ觀念ヲ確保セシメンコトニ注意シ追徵ニ應セサル者ハ行政執行ノ手續ニ依ルコトヲ得セシム

感化事業ト最モ直接ノ利害ノ關係ヲ有スルモノハ地方公共團體是レナリ故ニ公共團體ヲシテ主トシテ斯業經營ノ局ニ當ラシムルコトハ各國殆ント其軌ヲ一ニスル所ニシテ從ツテ之レカ必要經費ノ負擔ニ就テモ大概皆地方團體ヲ以テ其主體トナスモノ、如シ我カ感化法規定ノ精神モ亦此ニアリ唯タ本法施行ノ取捨權ヲハ舉クテ之ヲ地方議會ニ一任シタルカ如キ立法意思ノ薄弱モ亦極マレリト云フハシ普國ニ於テハ感化生押送費感化交付ノ際ニ於ケル規定上必要ノ費用感化交付中ニ於ケル死亡者ノ埋葬費及ヒ退院者ノ歸郷旅費ハ感化生ノ屬スル救貧居住地ノ町村貧民組合ノ負擔トシ若シ主管ノ



町村組合アラサルトキハ當該地方組合ノ負擔ニ屬ス地方組合ハ感化院ノ建設感化生ノ收容及ヒ教養並ニ出院者ノ保護ニ關スル費用ヲ支出スルノ義務ヲ有ス

國家ハ感化事業ニ對シテ果シテ全ク無關係ノ地位ニ超然タルヲ得ヘキヤ將タ又感化事業ハ國家ノ勸奨助力ヲ俟タスシテ獨力以テ能ク其成効ヲ期スヘキヤ否苟クモ斯業ノ性質範圍其他各般ノ關係ヲ詳カニスル所ノ者ハ國家モ亦理論上及ヒ必要上大ニ其力ヲ斯業ニ盡スノ責任アリト斷言スルニ躊躇セサルヘシ英國ノ如キ最モ共濟慈善ノ思想ニ富ミ且ツ自治觀念ノ最モ旺ンニ發達シタル國柄ニ於テスラモ既ニ久シキ以前一八五四年以來ヨリ之ヲ慈善的私設事業ニ一任スルノ不可ナルヲ認メタルト共ニ國家及ヒ公共團體ニ於テ之ヲ保護監督スルノ方針ヲ定メ國家ハ年々之レニ向ツテ多額ノ補助費ヲ支出スルコトヲ斷行スルニ至レリ近數年ノ調査ニ依レハ感化事業費一年平均凡ソ五十五萬磅約六十五萬磅ヲ支出シタリト云フ殆ント我カ全國監獄費年額ニ匹敵ス而シテ此五十五萬磅ノ年額中感化院ノ經費ニ屬スル分十五

萬磅授業院ノ維持ニ要スル分四十萬磅之レニ對スル國庫補助ノ年額ハ感化院ニ對スル分六五九二七磅授業院ニ對スル分一二七〇八二磅合計約二十萬磅ノ巨額ニ達ス事業費合計五十五萬磅ノ內國庫補助額二十萬磅ヲ控除シタル三十五萬磅ノ殘額ハ地方團體教育自治體有志慈善家扶養義務者等ニ於テ之ヲ負擔スルノ實況ナリ扶養義務者ハ收容兒童一人ニ就キ一週五シルリノクテ負擔スルノ規定ナレトモ實際ニ於テハ平均僅カニ一シルリノ内ノ收入ニ止マリ其合計額ハ經費總額ニ對スル百分ノ〇五ノ割合ニ過キスト云フ普國ニ於ケル感化事業ノ經費ハ英國ニ比スレハ遙カニ少額ナリト雖モ然カモ國庫地方團體有志慈善家等即チ普國全體カ年々一萬千五百人内外ノ感化生ヲ養フカ爲メニ費スルノ總額ハ凡ソ五百萬乃至六百萬馬克ト見テ大差ナカルヘク此內國庫カ直營五ヶ所ノ官立感化院ヲ有ス此直營經費約二十五萬馬克ナリ又ハ補助ノ爲メニ年々支出スル所ノ經費ハ平均凡ソ二百萬馬克ナリ一九〇一年ノ經理年報ニ依レハ國庫支出額總計二百二十九萬六千四百七十四馬克餘ナリ文明各國カ斯業ニ對シテ國家當然ノ任務ヲ盡シツ、アル



コト斯クノ如シ況ニヤ彼レト大ニ國情ヲ異ニシ比較的健全ナル共濟慈善ノ觀念ニ乏シキノミナラス何事モ國家ノ萬能力ニ依頼セントスルノ慣習アル我國ニ於テヲ殊ニ感化ト稱スルカ如キ不生産的耳新シキ事業ニ對シ容易ニ社會ノ同情ヲ惹キ起サシムルコト至難ナリト謂フヘク幸ニシテ僅カニ其創始ヲ見ルニ至ルモ一頓挫アレハ則チ忽チ反抗非難ノ聲裡ニ其運命ヲ埋沒セシメラル、ニ至ルヘキハ今ヨリ之ヲト知スルニ難カラス實權ハ金力ニアリ金力ニ伴ハサルノ監督ハ監督ノ名アツテ其効ナク金力ヲ以テセサル保護ハ保護ノ名アツテ其實ナシ國家ハ唯タ一片ノ法律ヲ制定スルニ止マリ之レニ伴フ必要ノ經費ニ就テハ些少ノ補助額タニ支出スルノ成算ナキニ拘ハラス尙ホ漫然トシテ感化事業ハ目下焦眉ノ急務ニ屬ス政府ハ斯業ノ一日モ早ク普及實行セラル、ニ至ランコトヲ望ムト稱ス(政府委員カ議會ニ於テ感化法案ノ協贊ヲ求ムルニ當リ公言シタル所ニ依ル)其望ミヤ空望ニシテ其言フコトヤ無責任モ亦甚シト謂フヘシ政府ニシテ若シ果シテ眞面目ニ斯業普及ハ一日モ速カナランコトヲ望ムトナラハ宜シク國庫ヨリ必要經費ノ補助ヲ

與フルノ成算ヲ定メ由ツテ以テ感化事業ノ財源ヲ確乎タラシムルヲ得ルノ道ヲ講スヘシ感化事業ハ犯罪豫防ニ對スル最も直接ニシテ且ツ最も有効ナル手段タリ之レカ普及ヲ計ルノ結果ハ一般犯罪者殊ニ幼年犯罪者ノ減少トナツテ間接ニハ國家民人ノ安寧ヲ維持シ直接ニハマタ監獄經費ノ節約トナツテ國庫ノ負擔ヲ輕減スヘシ感化事業ハ一種ノ監獄改良事業ナリ監獄改良ニ必要ノ經費ハ國庫ノ負擔タルヲ免カレ能ハサルカ如ク感化事業ニ對シテモ亦相當ノ責任ヲ盡ス所ナカルヘカラス況ンヤ嘗タニ國庫ノ負擔ニ堪ヘサル程ノ多額ノ支出ヲ要セサルノミナラス其支出スル所ノモノハ數年ヲ出テスシテ監獄費ノ減額ニ依ツテ之ヲ償フテ尙ホ餘リアルヲ見ルヘキニ於テヤ要スルニバレト曰ク性行ノ矯正ト教育特ニ職業教育トハ犯罪防止ノ重要ナル手段ニシテ何處ヲ問ハス少年犯罪者取扱ノ爲メニ特ニ熱心ナル工夫ヲ凝ラシタル場所ハ其設備ノ程度ニ從フテ各々著シク犯罪ヲ減少シタルノ事實ヲ見ルヲ得タリ蓋シ少年犯罪者特別處分ナルモノハ一時多額ノ費用ヲ要スルノ嫌ヒナキニ非スト雖モ永久ノ計算上ニ於テハ却テ利益多キモノナ



リ「ミス、バレット」著田中太郎氏譯歐米感化事業（二八頁）ト至言ト謂フヘシ

### 第十五章 感化事業ノ成績

感化事業ノ成績ニ就テハ上來既ニ各國ノ實例ヲ引證シテ詳述スル所アリト雖モ此ニ本論ヲ結フノ順序トシテ重テ尙ホ其一班ヲ證明スルノ必要アリト信ス感化事業ノ成績ヲ知ラントナラハ先ツ感化ヲ受ケタル少年ノ前途如何ヲ詳ラカニセサルヘカラス我國ノ如キハ固トヨリ殆ント一モ感化事業トシテ認ムヘキモノナク刑法懲治處分ノ規定アリト雖モ實質ハ即チ自由刑ノ執行ト毫モ相異ル所ナキカ故ニ懲治者ノ前途ヲ以テ感化事業ノ成績ヲ知ルノ標準トナスニ足ラサルハ勿論ナリ然ラハ歐米各國ニ於ケル被感化生ノ前途如何ト云フニ是レマタ特ニ此點ニ關スル統計表ノ徵スヘキモノナキカ故ニ之ヲ證明スルコト殆ント不可能タルヲ免カレスシテ唯タ僅カニ犯罪者ノ多數カ幼年ニシテ兩親又ハ兩親ノ一方ヲ喪ヒ或ハ私婚又ハ繼父母ノ手ニ育チ概シテ不長又ハ不完全ナル教養ノ下ニ生育セラレタルモノナルノ事實ヲ證

明スルニ過キス此事實既ニ以テ感化教育ノ必要ヲ立證スルニ足ルト雖モ余輩カ此ニ知ラント欲スル所ノ感化施行後ノ成績如何ヲ詳カニスル能ハサルヲ遺憾トセサルヲ得ス

感化教育カ一般ノ犯罪殊ニ幼年犯罪ヲ減少セシムルノ効果アルコトニ就テハミス、バレットノ所謂少年犯罪者取扱ノ爲メニ特ニ熱心ナル工夫ヲ凝ラシタル場所ハ其設備ノ程度ニ從フテ各々著ルシク犯罪ヲ減少スルノ事實ヲ見ルト云フカ如ク英國ハ即チ一八五四年以來各國ニ卒先シテ最モ慎重ナル注意ト工夫トヲ此事業ニ加ヘタルノ國ナルカ故ニ其實施以後ニ於ケル犯罪一般ノ顯象ヲ觀察スルハ即チ以テ感化事業ノ成績ヲ知ルノ一標準トナスヲ得ヘシ

年 紀	十六歳以下ノ犯罪者	十六歳以上ノ犯罪者
一八八二	六七一八	二二二、八四八
一八八三	六三六三	二二〇、〇七一
一八八四	六〇六九	二二一、八七一



一八八五	五九八七	二〇三、一五五
一八八六	五八六〇	二一〇、五九九
一八八七	五七七〇	二〇三、六九七
一八八八	五九六八	二一〇、三三七
一八八九	五二一九	二〇二、八三〇
一八九〇	四六二七	一九八、六一四
一八九一	四六五二	一九五、三九八

本表ハ英克蘭、蘇克蘭及ヒ「ウエールス」ヲ總括シタルモノニシテ Leuzil, Zvrindgen-  
Idung in Englandニ依ル

アシロツト所著ノ英國監獄事業ノ一節ニ曰ク英國一八九一年ノ犯罪統計ヲ以テ之ヲ一八七一年ニ比較スルトキハ禁錮囚ニ於テ百分ノ三二、懲役囚ニ於テ百分ノ五四ノ減少アルヲ見ル而カモ其人口ハ二千二百万ヨリ二千九百万ニ増殖スルニ至リタリ云々余ノ調査スル所ヲ以テ之ヲ見ルモ一八八三年ニ懲役一〇一六九禁錮一七一四九合計二七三一八八ノ在監囚徒アリシ所ノ者

爾來漸々遞減ノ傾向ヲ示シ越ヘテ十年後ノ一八九三年ニ至ツテハ懲役三六九四禁錮一四五五九合計一八二五三人トナリ終ニ一八九九年ノ現數合計一六四八九ニマテ退却スルニ至レリ而シテ其未成年犯罪者トシテ監獄ニ拘禁セラル、者ノ統計ニ至ツテハ一層驚クヘキ減少ノ事實アルヲ見ルコト左表ノ如シ

年 紀	十六歳以下
一八五六	一三、九八一
一八六六	九、三五六
一八七六	七、一三八
一八八六	四、九二四
一八九六	一、四九八

ミスバレット Miss Rosa Barrett: Juvenile Offenders 田中氏譯 感化事業九頁ニ依レハ英國ニ於ケル少年囚人ノ數ハ近年著ルシキ減少ヲ來セリ即チ一八三六年ニ於テハ十二歳ノ囚人ノ數ハ九四五人アリシニモ拘ハラヌ一八九六年ニ至リテ



ハ其數僅カニ六十人トナリタリ之ヲ在監總人員ニ配當スルニ一八三六年ニ  
 ハ一萬人ニ就キ一三四人ナリシモ一八九六年ニハ單ニ四人トナリタルノ割  
 合ナリ此原因ハ感化主義學校ノ開設及ヒ初犯者取扱法ノ施行ニ存スルモノ  
 トス云々

感化事業カ之ヲ受クシ所ノ當該者ニ對シテ如何ナル成績ヲ與ヘシカト云フ  
 ニ就テハ各國未タ之ニ關スル統計表ノ據ルヘキモノナキコト前ニ述ヘタル  
 所ノ如クナリト雖モ此ニ英國ニ於ケル認可感化院及ヒ認可授業院カ其出  
 者ノ成績ナリトシテ報告シタル所ニ依ツテ之ヲ見レハ

感化院ニ於ケル一八八二年乃至九十年成績百分比例

年 紀	改 良	疑 問	再 犯	不 明
一八八二	七四	五	一〇	一一
一八八三	七二、五	六	一一	一〇、五
一八八四	七四	五、五	一〇	一〇、五
一八八五	七五、五	五、五	一〇	九

授業院同上

年 紀	改 良	疑 問	再 犯	不 明
一八八六	七五	七	九、五	八、五
一八八七	七六、五	六	九、五	八
一八八八	七五、五	五	一一、五	八
一八八九	七五	五、五	一二	七、五
一八九〇	七五、五	六	一〇、五	八
一八九一	七七	五	九、五	八、五



一八八八	八二	五、五	三	九、五	二二六
一八八九	八二、五	五、五	三	九	
一八九〇	八三、五	四、五	三	九	
一八九一	八四、七五	四、五	二、七五	八	

愛蘭ニ於ケル一八八一年ノ調査ニ依レハ累犯者八二七六人ノ内曾テ感化ニアリシ者ハ六十七人ニ過キス而シテ感化法施行以來其退院者總數ハ四一三五人ナリト云フ英國レソドヒル感化院ニ於ケル一八九七年乃至一九〇〇年ノ成績報告伊東思恭氏著不良少年感化法一二七頁ニ依レハ

處置	人員	善良	再犯	疑問	不明
歸宅	二四六	二三四	一四	四	四
移住	五七	五三	二	一	一

若シ夫レ各國各感化院ノ調査ニ成ル年報等ニ就テ之ヲ見レハ北米「エルマイラ」感化院ニ於ケル出院者改良ノ割合百分ノ八八ト云ヘルカ如キハ取除ケトスルモ一トシテ殆ント百分比例ノ六〇ニ降ルノ成績ヲ呈スルモノアルヲ見

ス即チ收容少年ノ總員ニ對スル少クモ感化教育ノ惠ニ浴シテ罪惡ヨリ免カ  
ル、ヲ得ル者ノ割合ノ多キ事實ヲ證明スルヲ得ベシ之ヲ放擲スルノ結果ハ  
雷タニ全部ヲシテ盡ク罪惡ニ陥ラシムルノミナラス或ハ一人ノ惡童ハ純良  
ナル幾百ノ幼者ヲ醜化ス下云フカ如ク或ハマタタルドガ摸倣ノ法則トシテ  
「故障ナキトキハ摸倣ハ等比級數ニ依テ進ムモノナリ」(穂積博士著前出一三頁)  
ト云フカ如ク數量ニ於テ幾倍ノ増加ヲ見ルト共ニ實質ニ於テモ亦危險ナル  
犯罪者トナツテ間接直接ニ而カモ永久ニ國家ノ秩序安寧ヲ危害スルニ至ラ  
シムルヲ免カレヌ假リニ不良少年ノ十分ノ一ヲ改良感化シ得ルトスルモ尙  
\*其國家ニ益スル所ヤ蓋シ大ナリト謂フヲ得ヘシ況ンヤ其過半數ハ能ク之  
ヲ罪惡ヨリ豫防シ得ルノ實績アルヲ見ルニ於テ「ヤラント」ノ所謂先ツ兒  
童ヲ救助セヨ汝ハ此ニ始メテ犯罪ヨリ免カル、ヲ得ヘシ」ノ言ノ空シカラサ  
ルヲ信ス

## 第十六章 未成年犯罪者ニ對スル刑ノ執行法



犯罪豫防ノ第一關門ハ一般幼年者ノ保護ニシテ感化事業ハ即チ之ニ次ク所  
 ノ第二ノ關門ト云フヘク之レト相前後シ若クハ相並行シテ尙ホ諸般ノ戒飾  
 的處分アリ最後ニ來ル所ノ關門ハ未成年者ニ對スル自由刑ノ執行即チ是レ  
 ナリ行刑ハ固ト犯罪事後ニ於ケル一ノ防遏的手段ニ屬スヘキコト勿論ナリ  
 ト雖モ所謂累犯若クハ本性ノ犯罪トモ云フヘキ慣習性犯罪ノ増加ヲ豫防ス  
 ル上ニ於テ最モ直接且ツ有効ノ客體ヲ目的トスルモノナルカ故ニ未成年者  
 ニ對スル自由刑ノ執行ヲ以テ之ヲ廣キ意義ノ犯罪豫防手段ノ範圍ニ屬セシ  
 ムルコト必スシモ不可ナリトナスヘカラス少クモ未成年犯罪者ノ處遇法ヲ  
 研究スル場合ニ於テハ併セテ之レニ對スル自由刑ノ執行ニ就テモ亦論述ス  
 ル所ナカルヘカラサルハ蓋シ自然ノ順序ナリト謂フヘシ  
 監獄改良史ヲ繙ク所ノ者中古時代ニ於ケル監獄ノ慘狀ヲ記述スルノ一條件  
 トシテ其何人ノ筆ニ成ルトヲ問ハス恰カモ符節ヲ合スルカ如クニ老幼男女  
 其拘禁ノ場所ヲ同クシ甚シキハ則チ其居室ヲ等フスノ套語アルヲ見ルヘシ  
 男女其居室ヲ等フスノ慘ハ姑ク擱キ所謂改良セラレタリト稱スル文明今日

ノ監獄ニ於テ果シテ老幼其居室ヲ同フスルカ如キ事實ナシト云フヲ得ルカ  
 果シテ又同一構内僅カニ形式ニ過キサル區劃ヲ設ケテ老幼男女ヲ拘禁スル  
 カ如キモノナシト謂フヲ得ルカ文明各國到ル所ニ特別ナル女監幼年監等ノ  
 設ケアルヲ見サルハナキニモ拘ハラヌ獨リ我國ニ於テハ未タ一モ是等ノ施  
 設アラサルノミナラス其内容ノ實際ニ於テハ殆ント歴史家が改良紀元以前  
 ノ慘狀ヲ形容スルガ爲メニ用フル所ノ套語ト相撰フ所ナシト謂フモ可ナリ  
 個人處遇ノ監獄行刑ノ要義タルハ言フヲ俟タス然カモ能ク此要義ヲ全フセ  
 ントナラハ少クモ先ツ分類處遇ノ設備ヲ完全ナラシムル所ナクシテハアルヘ  
 カラス況ンヤ最モ罪惡ニ感染シ易キ素質ニ富ム所ノ未成年犯罪者ヲ適當ニ  
 處遇セント欲スルニ於テチヤ之ヲ他ノ一般成年犯罪者ト同シク一監獄ノ内  
 而カモ不完全ナル區劃ノ下ニ拘禁スルノ結果ハ獨リ之レニ對シテ適當ナル  
 處遇ノ目的ヲ全フスル能ハサルノミナラス未成年者ヲシテ益々惡感醜化セ  
 シムルニ至ルノ弊アルヲ免カレサルハ蓋シ親易キノ理ナリ余ハ必スシモ總  
 ヘテ獨立セル幼年監獄ヲ設置スルニ非サレハ之ヲ適當ニ處遇スル所以ノ目



的ヲ達スル能ハスト云フニ非サレトモ少クモ未成年犯罪者ノ二分ノ一以上ハ之ヲ獨立幼年監獄ニ收容シ他ノ半数ハ完全ナル區劃ノ内ニ設備セラレタル所謂幼年監ナルモノニ之ヲ拘禁スルニ至ラシメテコトヲ切望スルモノナリ幼年監及ヒ幼年監獄ニ於テハ成ルヘク多數ノ分房ヲ設備シ未成年者ヲシテ少クモ夜間之ヲ獨居セシムルコト最モ必要ナリ未成年者殊ニ十七八歳未滿ノ者ヲシテ之ヲ晝夜分房ニ獨居セシムルコトニ就テハ或ハ健康上有害ナル影響ヲ及ホスコトアラシカトノ懸念ヨリ一時大ニ之ヲ制限スルノ方針ヲ取リ現ニ獨乙行刑法草案ノ如キハ其第十五條ニ於テ十八歳未滿ノ囚人ハ監督官署ノ許可ヲ經ルニ非サレハ三個月以上晝夜分房ニ拘禁スルヲ得スト云フノ規定ヲ設クルニ至リシモ分房施行法ノ改良セラレタル今日ニ於テハ層々ニ健康上有害ナル影響ヲ及ホスノ恐れナキノミナラス成年者ニ比シ反テ一層之ヲ分房ニ拘禁スルノ必要ヲ認メ殊ニ短期ノ未成年囚ノ如キハ全部之ヲ分房ニ拘禁スルニ非サレハ到底行刑ノ目的ノ幾分ヲモ全フスル能ハサルコトヲ確認スルニ至レリ

幼年監ノ獨立若クハ嚴割ヲ必要トスル所以ノモノハ未成年者ヲ罪惡感染ノ前ニ豫防スルト共ニ幼者ノ個人的關係ニ適切ナル行刑の處遇ヲ專ラナラシムル所アラント欲スルニ外ナラスシテ其刑罰執行ノ場所タル性質ニ至ツテハ毫モ普通ノ監獄ト相異ル所アルニ非ス其幾分カ相異レル所アリト云フハ唯々刑罰執行ニ固有スル所ノ教養的要素(erziehliche Momente)カ幼年監ニ於テ重要ノ地位ヲ占メサルヘカラサルコト即チ是レノミ而シテ其教養的要素ニ重キヲ置ク所以ノモノハ行刑ヲシテ幼者ノ個人的關係ニ適スル所アラシメント欲スレハナリ幼年監ヲシテ學校若クハ感化院ニ變形セシムルカ如キコトナキヲ要ス(Krohne: Lehrbuch S.500)

教養的要素ハ之ヲ別ツテ教育作業及ヒ體育ノ三種トナスヲ得ヘシ教育ト犯罪ノ關係ニ就テハ學者各々其見ル所ヲ異ニシ或ハ教育能ク以テ罪惡の性情ヲ改良感化シ得ヘシト云ヒ或ハ教育ハ唯々平均的性情ヲ有スル者(Die Durchschichtnatur)ニ對シテ能ク其効果ヲ見ルヲ得ヘキモ平均以上ノ良性若クハ惡性ヲ有スル者ノ上ニハ毫モ勢力ヲ及ホス能ハサルヘシト云ヒ或ハ教育



ハ唯々悪性ノ發達ヲ遲緩ナラシムルノ力アルニ過キスト云ヒ或ハ教育ハ絶對ニ犯罪ヲ減少セシムルノ効力アリト云ヒ或ハ全ク之レト反對ニ教育ハ嘗ニ犯罪ヲ減少セシムルノ力アラサルノミナラス反ツテ犯罪ニ對シテ新シキ糧ト武器トヲ與フルノ弊アルニ過キス(Lombroso: "Der den Gefangenen ertheilte Unterricht schafft zu ihrem Nutzen ein neues Instrument fuer d. Verbrechen") ト云ラカサンギニ (Laccasagne) ノ如キハ教育ノ犯罪ヲ根滅スルノ力ナキハ勿論ナリト雖モ少クモ犯罪ノ性質ヲ變化セシムル上ニ著ルシキ影響ヲ及ホスノ事實アルヲ認ムト云ヒ諸説紛々未タ一定ノ解決ヲ見ルニ至ラスト雖モ少クモ犯罪者ノ多數カ教育ニ欠乏シ又教育ノ普及セサル地方ヨリ比較的多數ノ犯罪者ヲ出タスノ事實普國近年ノ統計ニ就テ之ヲ見ルニ義務教育ヲ履行スル所ノ西部地方ハ之ヲ履行セサル東部地方ニ比シ犯罪者ヲ出タスノ割合著ルシク少シ即チ人口十萬人ニ對シウエストフアイレン、ライン地方、ホーヘンツアルレン等ニアツテハ七百人乃至千人ノ犯罪者ヲ出タスノ割合ナルニ反シボーゼン、ウエストプロイゼン等ノ地方ニ於テハ千七百人以上二千入殆ント

倍數以上ノ犯罪者アルヲ見ルノ實況ナリ尤モ東部地方ニ於テモ一八九〇年以來義務教育履行ノ方針ヲ取リタル結果トシテ漸次犯罪者ノ割合ヲ減スルノ傾向ヲ見ルニ至リタリト云フ是マタ注意スヘキノ事實ナリト謂フヘシニ依ツテ之ヲ見レハ教育カ消極的犯罪豫防ノ力アルハ疑ヒナキ所ニシテ既ニ消極的豫防ノ力アリトナラハ之レニ欠乏セル犯罪者ニ對シテ適當ニ之ヲ施行スルノ結果ハ假令ヒ全ク其性情ヲ改造シ能ハサルモ之レヲシテ能ク罪惡ノ機會ヨリ遠サカラシメ得ルノ能力ヲ有セシムルニ至ルヘキハ推理上殆ント一點ノ疑ヒヲ容レサル所ナリト謂フヲ得ヘシ

教育トハ唯々乾燥ナル讀書習字算術等ノ智識ヲ與フルノ謂ヒニ非ス彼レハ是等ノ智識ニ欠乏スルノミナラス又最モ道德的觀念ニ欠乏スル所ノモノナリ彼レヲ罪惡ニ餘義ナクセシムルニ至リタル所以ノモノハ寧ロ智育ノ欠乏ニ非スシテ道德的教養ノ欠乏ニアリト云フヲ得ヘシ此教養ノ缺陷ヲ補フコト則チ監獄教育ノ主タル目的トスヘキ所ニシテ教育即チ狹義ノ教育(Unterricht)ニ非スシテ廣義ノ教育、獨乙語ノ所謂(Erziehung)ノ意味ニ之ヲ解釋セサル



ヘカラスクトレー (Quatlet) 曰ク「道德ヲ基礎トセサル教育ハ偶マ以テ容易ニ罪惡ニ陥ラシムルノ弊アルヲ免カレズ」ト監獄教育ハ殊ニ重キヲ宗教倫理ノ上ニ置キ努メテ其道德的意思ヲ發達セシメ鞏固ナラシムルコトニ留意スル所ナカルヘカラス蓋シ不道德ト意思ノ薄弱トハ彼レヲ罪惡ニ陥ラシムルノ主因タレハナリ

教育ノ科目ハ之ヲ受クル所ノ囚人ヲシテ努メテ趣味ヲ感スルニ至ラシムルコトヲ要ス如何セハ能ク之レニ趣味ヲ感セシムルコトヲ得ルカト云フニ先ツ成ルヘク實際的生活ト直接ノ關係ヲ有スル所ノ材料ヲ撰ンテ之ヲ教育ノ科目トナシ之ヲ受クル者ヲシテ其學ヒ得タルモノカ直チニ自己ノ善後ヲ利益スルニ至ルヘシトノ觀念ヲ起サシムルコト必要ナリ一タヒ彼レニ此觀念ヲ起サシムルヲ得ハ學習ノ趣味及ヒ熱心モ亦此ニ生シ從ツテ知ラス識ラヌノ間ニ其心情ヲ開發シテ之ヲ改良感化ニ傾カシムルコトヲ得ヘキナリ例ヘハ讀書ヲ授クノ場合ニ於テハ徒ラニ其分量ノ多カラシムルコトヲ求メス一句一節苟クモ讀習シタル所ノ者ハ總ヘテ之ヲ理解スルニ至ラシムルヲ專ラトシ

之ヲ實際ニ應用シ若クハ之レニ依ツテ新タナル實踐的道德觀念ヲ開發シ且ツ其理解シタル所ヲ簡易ナル短文ニ表示セシメンコトヲ努ムヘシ讀書ノ種類ハ倫理道德ノミニ限定スルヲ要セス地理、歴史、博物、經濟等ノ諸科目ニ涉リ人事日常ノ生活ニ必要ナル智育ヲ與フルコト亦缺クヘカラスアルコトナリト謂フヘシ習字ハ獨力以テ其思想ヲ讀ミ得ラル、形ノ上ニ表示スルヲ得ルニ至ラシムレハ則チ足レリ墨ヲ磨ツテ筆ニ浸シ筆ヲ採ツテ紙ニ臨マシムルノ場合ニ於テ能ク姿勢ヲ端正ナラシムルト共ニ嚴ニ清潔ト規律トヲ遵守セシムルノ注意アルヲ要ス一字一劃ヲ教フルノ前ニ於テ須ラク先ツ手ト被服ト卓子トノ清潔規律ヲ保全スルノ慣習ヲ養成スル所ナカルヘカラス算術ノ如キモ亦之レニ依ツテ日常生活ノ處辨ニ利用セシムル所アラシムルコトヲ主眼トスヘク尺度、衡量、價格、損益等ノ實際問題ニ就テ材料ヲ撰ヒ努メテ勤儉ノ思想ヲ養成シ節用ノ方法ヲ理解スルニ至ラシムル所アルヲ要スマルコトヲ井ツヒ (Anton Morcovich: in Blk. a. Gelfk. VIIXXX 3. n. 4. H. S. 241) ハ幼年囚ノ貯蓄思想ヲ養成スルノ手段トシテ郵便貯金帳ヲ各自ニ交付シ置クヘシトノ説ヲ提議セ



リ實行ノ可否ハ姑ラク擱キ教育ノ趣味ヲ感ゼシムルノ手段トシテハ此クノ如ク總ヘテ成ルヘク活物利用ノ道ニ依ルコト緊要ナリト謂フヘシ  
 教育活用ノ妙ハ一人ニ存ス深ク事理ヲ解シ厚ク常識ト經驗ニ富ミ併セテ又監獄行刑ノ事務ニ通曉シ眞ニ所謂心ト情トヲ以テ充タサレタル人物ヲ撰ンテ監長教師又ハ教誨師タラシメサルヘカラサルハ勿論看守授業師其他總ヘテノ職員ヲ通シテ最モ之レカ撰任ノ上ニ慎重ノ注意ヲ加フル所ナカルヘカラス

未成年犯罪者ノ多數ハ其健康上平均狀態以下ニアルヲ免カレサルノ事實ハ既ニ前ニ開陳シタル所ニシテ少クモ殆ント一人トシテ不規律不秩序ナル生活ニ馴致セラレタル者ニ非サルハナキノ事實ハ吾人ノ確認スル所ナリ之レニ體育ヲ加フルノ必要アル所以ニシテ其方法ノ如キハ當局者ノ取捨ニ一任スヘシトスルモ普通學校ニ於テ用フル體育法ノ如キハ動モスレハ嚴正ナル刑罰ノ眞面目ヲ害スルノ嫌ヒナキニ非ス余ハ現ニ歐米各國ニ於テ實行シアルカ如ク幼年監採用スル所ノ體育法トシテ軍隊操練ノ最モ適當ナルヲ信ス

蓋シ健康ニ益スル所アルノミナラス能ク監獄行刑ノ規律ト相一致シテ一層彼レニ服従ト秩序ノ慣習ヲ養成スルノ効果アルヘキヲ以テナリ願ハクハ彼レノ前途ヲシテ一タヒ名譽アル軍服ヲ着ケテ國民ノ義務ヲ全フスルヲ得ルノ人タラシメヨ軍隊操練ハ彼レニ此機會ヲ與フルノ準備トシテモ亦少カラサル効果アルヲ得ヘシ

懶惰ハ總ヘテノ罪惡ノ根原ナリ之ヲ防遏セント欲セハ須ラク先ツ力食ノ必要及ヒ如何ニシテ力食シ得ルカノ方法ヲ會得セシムル所ナクンハアルヘカラス未成年囚ニ對シテ作業ヲ課スルノ目的ハ即チ此ニアリ其之ヲ課スルハ彼レノ勞力ヲ利用セント欲スルニハ非スシテ之レニ據ツテ專ラ教養ヲ施ス所アラント欲スルニ外ナラス普通所謂監獄作業ナルモノト其性質ヲ異ニスルノ要點ハ即チ此ニ存ス作業ノ種類ニ就テハ大體能ク各自ノ個人的關係ヲ顧ミ實際將來ノ生計ニ適當ト認メタルモノヲ撰擇スヘキコト勿論ナルカ故ニ其既ニ習得若クハ着手シタル業務アル者ニハ監獄ニ於テモ亦成ルヘク同一ノ業務ヲ課シ其未タ何等着手シタルコトナキ者ニ對シテハ能ク其境遇嗜



好能力等ヲ斟酌シテ努メテ之レニ適當スル所ノ業務ヲ撰擇スルコトヲ要ス  
 幼年囚ニ關スル作業ニ就テハド、メツツノ所謂人能ク土地ヲ開拓シ土地能ク  
 人ヲ感化スノ主義ニ基キ專ラ之レニ農業ヲ與ヘテ健全ナル地方農民タラシ  
 ムルノ素ヲ作ルヘシトノ説ヲ唱フル者多ク(殊ニ佛國及ヒ伊太利ニ於テ)現ニ  
 佛國ノ如キハ遠ク既ニ一八五〇年以來幼年囚農業監獄ナルモノヲ特設シ其  
 他白耳義獨乙英國和蘭瑞西北米合衆國等ニ於テモ亦類似ノ施設ノ下ニ未成  
 年犯罪者ヲ專ラ農業ニ從事セシムルノ類例ニ乏シカラス農業カ雷々ニ健康  
 ノ保全及ヒ精神ノ感化ノ上ニ有効ナルノミナラス刑事政策又ハ經濟政策ト  
 シテモ犯罪分子ヲ健全ナル農業地方ニ移植スルト共ニ地方生産力ノ缺乏ヲ  
 補フヲ得ルニ至ラシムルノ利益アルノ事實ハ余モ亦之ヲ認メサルニ非サレ  
 トモ唯々未成年犯罪者ナリトノ一點ヲ以テ其個人的關係ノ如何ヲモ顧ミス  
 盡ク之ヲ農業監獄ニ移送シ若クハ普通監獄ニ於テ專ラ農業ニ從事セシメン  
 ト欲スルニ至ツテハ余ノ異議ナキ能ハサル所ニシテ個人的境遇又ハ性情技  
 能體質等ノ關係ニ依リ多クノ場合ニ於テ又手工業ヲ授クルノ必要アルヲ見

ルヘク其將來ノ生計ニ益スル所アラシムルニ至ツテモ農業必スシモ手工業  
 ニ優サレリトハ謂フヘカラス例ヘハ多クノ都會兒ノ如キ其好マサルニ強テ  
 之ヲ歸農セシムルノ結果ハ多クハ則チ再ヒ無職浮浪ノ徒トナツテ都會甘味  
 ノ地ニ蟻集シ來ルニ至ラシムルヲ免カニスネマニツチ(Nemantsch)曰ク、Er-  
 fahrungsgemess sind alle jugendlichen Gefangenen, welche bis hin nicht mit landwir-  
 tshschaftlichen Arbeiten befasst waren, fuer solche nicht mehr geeignet, sie bleiben dah-  
 er fuer das Handwerk. 農業ト工業トハ兩ツナカラ共ニ之ヲ設備スルノ必要  
 アルヲ信ス況ンヤ將來ノ農民タラシメント欲スル所ノ者ニ對シテ或ル種類  
 或ル程度マテノ手工業ヲ習得セシムルノ必要アルニ於テヤ但シ如何ナル  
 場合ニ論ナク地方農家ノ出身者ニ對シテ漫然之ニ手工業ヲ教ヘ求メテ彼レ  
 ヲ地方ヨリ去ルノ止ムヲ得サルニ至ラシムルカ如キコトアルヘカラサルノ  
 ミナラス學理的實際的ニ益々彼レヲ農業ニ導キ一層進ンテ農業ニ對スル趣  
 味ト快樂トヲ感スルニ至ラシメント努メサルヘカラス  
 幼年監ニ於ケル作業ハ實業教育ノ一種トシテ之ヲ見ルヲ得ヘシ作業其物ハ



即チ實際的教育ニ外ナラザルヲ以テ宜シク之ヲ補フニ算數理化學ノ教習ヲ以テセサルヘカラス囚人ヲシテ作業ノ必要及ヒ趣味ヲ感シ且ツ之レニ精勵スルノ慣習ヲ養成セシムルコト最モ必要ナルカ故ニ徒ラニ唯タ叱責又ハ懲罰ノ手段ニ依ツテ之ヲ強制スルカ如キコトナク教誨又ハ教育ノ方面ヨリ常ニ人類ノ義務トシテ職業ニ精勵スルノ必要職業ノ精勵ニ依ツテ獨立地位幸福ヲ得ルノ理由等ヲ領解會得スルニ至ラシムルノ注意アルヲ要ス多數未成年囚ノ中ニハ早年既ニ過度ノ勞働ニ從事シタルカ爲メニ反ツテ之レカ原因トナツテ甚タシク勞働ヲ嫌忌シ勞働ノ嫌忌ハ逸遊徒食トナリ逸遊徒食ノ結果終ニ罪惡ニ陥リタル者少カラス是ヲ以テ之ヲ見レハ幼年囚ニ對シテ或ハ過度ノ勞役ヲ課シ若クハ唯タ單調ナル作業課程ノミヲ以テ彼レヲ責ムルコトノ不得策ナルハ明ラカナリト雖モ既ニ一定ノ作業ニ從事セシムル以上ハ宜シク全力ヲ傾注シテ之レニ精勵刻苦セシムル所ナカルベカラス糸毫ノ懈怠ヲモ恕スルコト勿レ徒ラニ寬緩ナル科程ヲ以テ彼レヲ待ツカ如キハ決シテ精勵刻苦ノ習慣ヲ養成スルノ道ニ非ス勞苦ハ休憩運動讀書等ヲ以テ之ヲ

慰養シ單調ハ教育操練教誨等ニ由ツテ之ヲ變化セシムルコトヲ得ヘキナリ之ヲ要スルニ未成年囚處遇ノ要ハ一刻モ彼レヲシテ無事ニ閑居スルノ機會ヲ與フルカ如キコトテカラシムルニアリ休日若クハ休憩時間ノ利用ニ就テハ當局者ノ殊ニ最モ苦心ヲ必要トスル所ナリト謂フヘシ  
 未成年犯罪者ニ對スル刑期ノ關係及ヒ假出獄利用ノ必要等ニ就テハ既ニ開陳スル所アリ終リニ尙ホ一言セント欲スルモノハ他ニ非ス監獄行刑ヲシテ終局ノ効果アラシメントナラハ少クモ先ツ幼年ノ出獄者ニ對シテ適當ニ之ヲ保護監督スルノ道ヲ開クニ至ラシメンコト即チ是レナリ彼レノ多數ト殆ト百分ノ九十九マテハ盡ク皆資産ト信用ト良友トニ缺乏スル所ノモノナリ之ヲ補フコト監獄行刑ノ能クシ得ル所ニ非ス免囚保護事業ノ宜シク第一着ニ其力ヲ盡サルヘカラス所ナリト知ルヘシ  
 拙著獄事談塊國獄制一斑ノ一節ニ曰ク

英國ニハ未タ特別ナル幼年監獄ノ設ケハアリマセヌカ一八八九年以來ブラーグ及ヒマールブルグノ二個所ノ監獄ニ於テ別區劃内ニ幼年監ナルモ



ノヲ附設シ此ニ十四歳以上二十歳以下ノ未成年囚ヲ集ムルコトニ致シタ  
ト云フコトデアリマス私ハ兩方ノ監獄ヲ見タノデアリマスカブライグノ  
方ハ新シイ建築ヲ先ツ埃國第一ノ完全ナル監獄ト申シテモ善カロト思  
ヒマスノテ幼年監ヲ此ニ附設セシメマシタノモ畢竟建築ノ完全ナルカ爲  
メデアラフト思ハレマス之レニ反シテマルブルグノ方ハ餘リ善イ建物  
トモ思ハレヌノデ同コトナラ外ノ比較的完全ナル監獄ヲ撰ンタ方カ幼  
年監ヲ設クルニ適當デハナカツタカト感シラレタノデアリマスカ段々後  
カラ考ヘテ見ルト當局者カ此所ヲ撰定シタルコトノ偶然デナイト云フニ  
トガ分ツタノデソレハ即チ有名ナル典獄ノマルコウ井ツヒト云フ人カ此  
所ニ居ル所カラ全ク此人ヲ目的トシタニ外ナラヌノデアリマス丁度私カ  
此ブライグノ幼年監ヲ視察致シタ時デアリマシタカ恰モ幼年囚ニ學業ヲ  
授クテ居ル所デ地理科ノ時間ト見ヘマシテ教師カ萬國暗射地圖ヲ指シテ  
生徒ニ答ヘサシテ居リマシタカ偶マ私カ參リマシタモノデスカラ多分、教  
師カ私ヘノ御馳走ノ積リテモアリマシヤウカ我日本帝國ノ所ヲ指シテ生

徒ニ此處ハ何ト云フ國デアアルカト尋ネマシタ所カ生徒ノ一人：忘レモシ  
マセヌカ丁度十二三歳ノ少年カ起立ヲ致シテ日本帝國デアルト答ヘマシ  
タ教師カ尙ホ重テ首府ノ名ヲ問ヘマシタ所、生徒ハ問ニ應シテ直クニ首府  
ヲ江戸ト稱スト答ヘマシタ教師ハ無論之レニ満足シマシテ更ラニ幾ツノ  
島カラ成立ツテ居ル？産物ハ何？氣候ハ如何？臺灣ト云フ島ハドヲシテ  
日本ノ版圖ニ入ツタ？生徒ノ答カ日清戦争ニ及ヒ戦争ノコトカラ國民ノ  
氣質文明ノ進歩ナトニ涉ツテ盛ンニ我國ノコトヲ此少年生徒ノ口カラ稱  
贊サレマシタノテ私ハ非常ニ愉快ニ感シマシタカ同時ニマタ如何ニシテ  
斯クマテ能ク教育サレテ居ルコトカト深く敬服致シマシタカ或ハ私ノ此  
處ニ來ルト云フコトカ前以テ分ツテ居ツタカ爲メニ特ニ教師カラ精シク  
教ヘラレテ居ツタノテハアルマイカト幾分ノ疑念ヲ抱イタノデアリマス  
然ルニ幸ニ教師カラ私ニ何か尋テ見ロト云フコトデシタカラ其場ヲ教師  
ノ鞭ヲ借りマシテ地圖ノ支那ノ所ヲ指シテ國ノ名、都ノ名、人口、面積：面積  
ナトノコトハ御當人ノ私サヘモ甚タ覺東ナイノデアリマスカ兎モ角モ色



々ナコトニ就テ丁度前ニ教師カ日本帝國ノコトニ就テ聞クト同シヤウナ事柄ヲ以テ或ル他ノ生徒ヲ指名シテ問フ試ミマシタ所カ悉ク満足ノ答ヲ得マシタノテ前ノ疑念モ晴レ益々感嘆ヲ深クシタ次第デアリマス唯々地理科ノミテナク其他總ヘテ教育カ如何ニモ實用的ニ能ク行キ届テ居ル生徒ノ作文々圖書ナドモ澤山見マシタカ何レモ進歩ノ著シキニハ感心ヲ致シマシタ殊ニ深ク感心シマシタノハ生徒カ如何ニモ樂シソトニ活キ々々トシテ熱心ニ學業ニ勵ンテ居ル様子ノ一目シテ見ヘルコトデアリマス地理學ナトニ致シマシテモ成ルホドアイ云フ風ニ教ヘマスレハ生徒モ所謂學ンデ倦ムヲ知ラスソレカラソレヘト自ラ進ンテ研究スル心モ生シ自然ニ外國移住ノ希望ナドモ起ルコトダロト感シタコトデアリマス此監獄ノ教育ノ行届イテ居リマスコトハ一般ニ認メラレテアル所テ決シテ私ノ皮想觀ノミデハナイノデアリマス教育ノ點ハカリカ行キ届イテ居ルト云フ譯テハナク此所ノ幼年囚ハ——中ニハ隨分頑冥醜惡ナル厄介小僧モ居ルソトデスガ是等ノ者モ自然ニ善キ境遇ニ感化セラレテ他ヲ惡化スル所

カ自分カ何時ノ間ニカ善化セラル、ニ至ルト、コト、デ兎ニ角一般ニ能ク仕事ニモ勉勵シ又行狀ナトモ善良ナル方デアアル從ツテ此處カラ出タ所ノ者テ眞ニ改良シテ一人前ノ働キヲナス者モ澤山アル趣テ監獄ニハ出獄者ノ親トカ或ハ親類ナトカラ典獄ニ贈ツタ所ノ感謝狀カ澤山ニ備ヘテアリマシテ出獄後ノ改良成績カ精ハシク證明セラレテ居リマス、マールブルグノ方ハ前ニモ申シマシタ通り監獄ノ規模モ小サク又構造モ餘リ完全ノ方デハアリマセヌカ流石ニマルコウ井ツヒ典獄ノ支配ノ下ニアルタケノ効能カ見ヘマシテ同氏ハ目下轉任シテアララグニ劣ラヌ善キ成績ヲ現ハシテ居リマス一八九一年以來此監獄ヲ放免ニナツタ所ノ五十七人ノ幼年者ノ成績ニ就テ取調べタモノカアリマスカ此内ノ八人カ最も擢シテタル善良ノ行狀ヲ保チ(ausgszeichnet)十八人カ抽ンテタル善良ノ行狀ヲ保チ(vorzuglich)十九人カ善良(sehr gut)八人カ良(gut)一人カ稍良(ziemlich gut)一人カ精神病トナリ其再犯ニ陥リタル所ノモノハ僅カニ二人ニ過キスト云フコトデアリマス即チ再犯ノ割合ハ僅カニ百分ノ三五之ヲ埃國ニ於ケル普



通幼年出獄者ノ再犯ノ割合百分ノ八〇ニ較ヘテ見マスト殆ント比較ニモナラヌノデアリマシテ實ニ驚クヘキ好成绩ヲ現ハシテ居ル次第デアリマス尙キ又陸軍省ノ方カラ此マールブルグノ幼年監カラ放免セラレタ者テ兵役ニ就イタ者ノ軍隊編入以來ノ成績ヲ報告シタモノカアリマスカ之レニ據リマスト一八九五年五月ニ至ルマテノ間ニ三十五人ノ出獄入營者ノ内二十一一人ハ軍隊ニ於ケル總ヘテノ行狀カ擢ンテ、善良デアリ八人カ善良二人カ良一人カ稍良一人カ精神病トナツテ癡狂院ニ送ラレ唯タ殘ル二人ノ者カ不良デアツタト記ルシテアル斯クノ如キ實況デアリマスカラ陸軍ナドノ側ニ於テハ不良少年カ監獄ニ這入ツタカ爲メニ普通ノ應募者ニ優サル所ノ有用ヲ兵隊ニ仕立テラル、コトカ出來タト認メテ居ルト云フコトデ一般ニ評判カ宜シイ趣テアル現ニ四五名ノ者ハ既ニ下士ニマテ擢擢セラレタト云フコトデアリマス、In den Jugendabtheilunge d. oesterr. Str.-anstalten werde eine verlässliche Grundlage zur Erwerbung militärischer Tüchtigkeit und Verwendbarkeit gelegt、幼年監ノ成績ハ此クノ如ク誠ニ著ルシイコ

トデアリマスガ全國ヲ通シテ僅カニ二箇所ダケテアツテ未成年四ノ全體ヲ盡ク收容スルコトカ出來ナイノデアル全體ハ愚カ僅カニ一小部分ノ者シカ收容スルコトカ出來ルニ過キヌノデアツテ今日ノ所テハ平均漸ク百二十人前後其以上ハ收容スル場所カ無イノデアリマス云云

附記

幼年監増設ノコトハ夙ニ苦心經營スル所ナレトモ經費ノ許サ、ル事情ニ依リ其目的ヲ達スル能ハサルヲ遺憾トストハ當時墺國當局者ノ余ニ語ル所ナリシカ最近ノ報告ニ依レハ昨年同國衆議院豫算委員會ニ於テ政府ハ總ヘテノ監獄(分監其他ノ小監獄ニ非サル)ニ完全ナル幼年監ヲ附設シ短期ノ未成年囚ト雖モ盡ク之ヲ此所ニ拘禁スルノ設備ヲ全フセンコトヲ望ムニ建議ヲ提出スル所アリ之レニ依リ政府ハ先ツ其第一着手トシテ昨年五月九日發布ノ司法省令ヲ以テ維納附近ノゲルレルスドルフ Goellersdorf 男監獄ノ全部ヲ幼年監獄トナシ十四歳乃至二十歳ノ未成年者ニシテ上部及下部墺土利並ヒニザルツブルグノ各裁判所、インスブルツクノ地方裁判所



及ヒフエルドキルヒノ區裁判所ニ於テ判決セラントル六個月ノ禁錮以上ノ囚入ヲハ年齢二十四歳ニ至ルマテノ間二十四歳ニ到達後六個月以内ニシテ放免スヘキ者ハ尙ホ拘禁ヲ繼續シ其餘ノ者ハスタイン男シテ此處ニ集禁スルコトニ定メ尙ホ進ンテ他ノ各男監獄ニ移送スルモノトス監獄内ニモ幼年監ヲ附設スルノ經畫ヲ實行スルノ方針ナリトノ旨趣ヲ公表スルニ至レリ

監獄ニ於ケル未成年犯罪者處遇ノ事ニ多年ノ經驗アルウ非スネル(H. Weiss her. in d. Blt fuer. Gefk. XB, 3u. 4 H. S. 145)ノ説ニ「未成年者ニ對シテ監獄行刑ニ依リ其罪惡的痛疾ヲ根治スルコトハ頗ル困難且ツ疑問タルヲ免カレスト雖モ其此ニ至ラシムルモノハ即チ多ク治療ノ時機ヲ失シタルカ爲メナルヲ確信ス」ト未成年犯罪者處遇ノ根本義ヲ道破シタルモノト謂フヘシ余輩固トヨリ多クノ望ミヲ監獄行刑ニ囑セサルノ理由ハ本問題ノ骨子トシテ一貫論議スル所ナリト雖モ既ニ刑ヲ科シテ以テ之ヲ監獄ニ拘禁スル以上ハ恰カモ難治ノ病者ヲ病院ニ送付シタルカ如ク難治ト雖モ其自然ノ成行ニ放任スヘキニ非ス監獄行刑ノ上ヨリ飽クマテ之ヲ治療即チ改良感化スル方法ヲ竭

ス所ナカルヘカラスネグリー(GraefanoNegri)曰ク「監獄ニ於ケル未成年犯罪者ノ改良ノ困難ナルヲ見テ失望スル所ノ者ハ恰カモ一個ノ菓物ノ箱ヲ開キ其表面ノ一列カ盡ク腐敗又ハ毀損セルヲ見テ其全部ヲ放棄セント欲スルニ同シ何ゾ知ラン表面ノ一列ヲ除ケハ則チ他ノ多クハ完全無缺以テ能ク食膳ノ珍味トナスニ足ルヲ完全無缺ノモノモ之ヲ放棄スルノ結果ハ終ニ共ニ舉クテ腐敗用ヲ爲ササルニ至ラシムルヲ免カレス未成年者ニ對スル監獄行刑殊ニ教養感化ノコトハ唯タ夫レ忍耐ト熱誠ニアリ忍耐ト熱誠トヲ以テ之レニ對スル所アラハ何レノ所ニカ根治ノ方法ヲ發見スヘシ何レノ日ニカ刻苦ノ効果ヲ顯彰スルヲ得ヘシ」ト至言ト謂フヘシ此ヲ以テ本論ノ終結トナス



明治三十六年九月廿八日印刷  
明治三十六年十月二日發行

著 作 者

小 河 滋 次 郎

發 行 者

磯 村 政 富  
東京市四谷區  
愛住町二番地

印 刷 者

水 村 周 吉  
東京市四谷區  
荒木町廿七番地

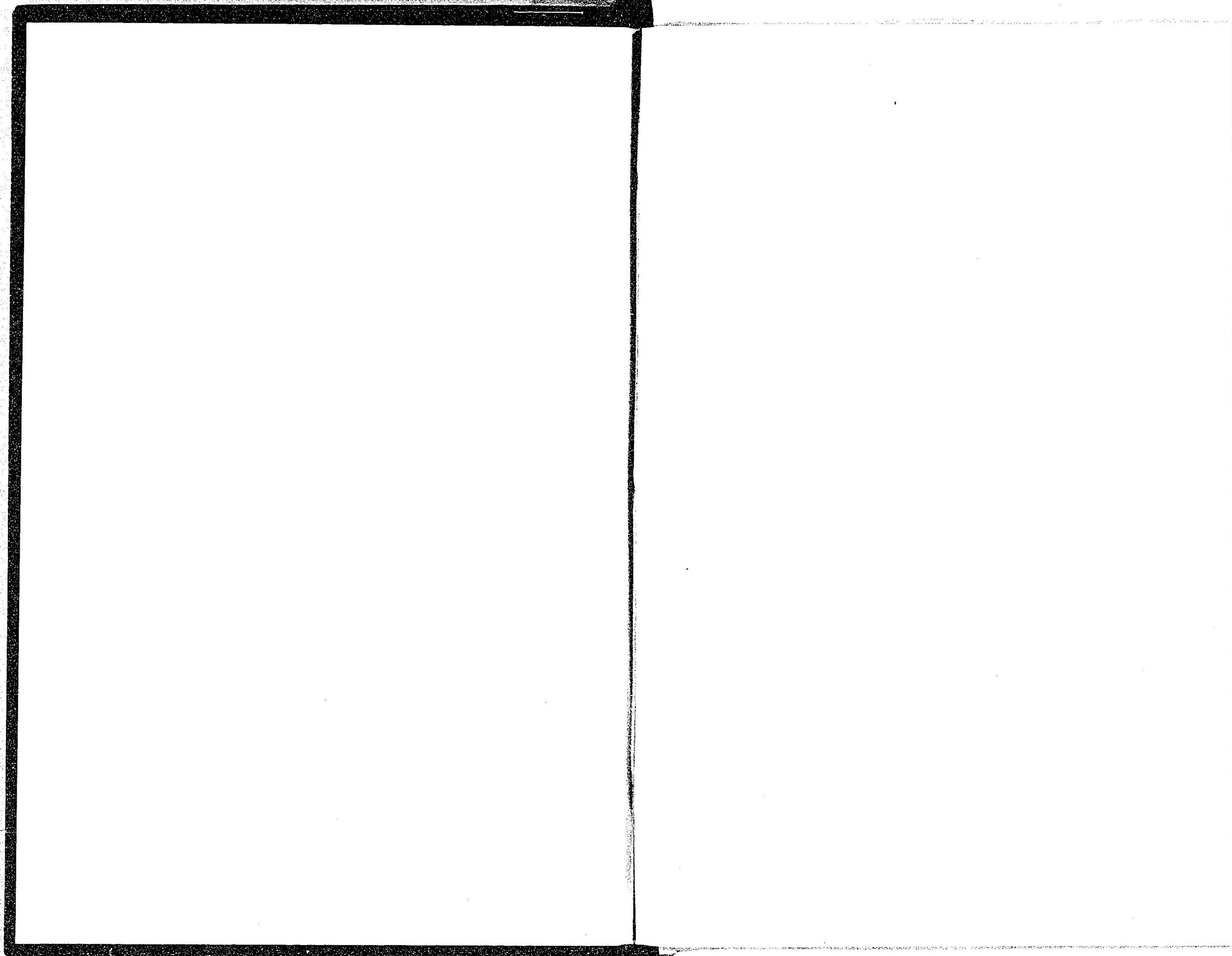
印 刷 所

惠 愛 堂  
東京市麴町區  
內幸町一丁目五番地

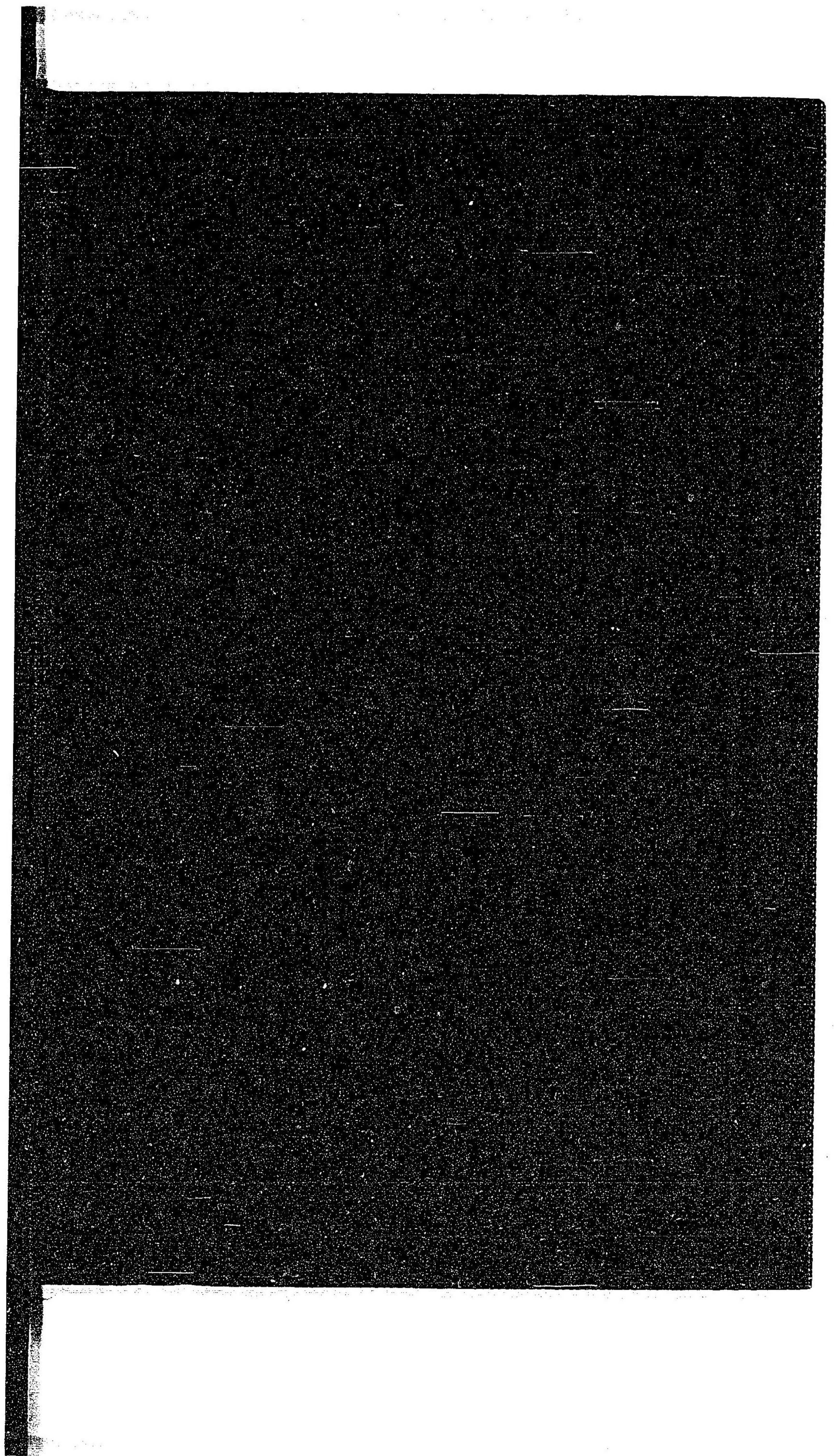


1-355











77  
244

036512-000-5

77-244

未成年犯罪者ノ処遇

小河 滋次郎ノ著

M36

BBR-0245

